わんさか大浦パーク機能強化基本計画策定業務

報告書

令和２年３月

名護市

わんさか大浦パーク機能強化基本計画策定業務
報告書

目次

序　はじめに……1
（１）目的……1
（２）業務内容……1
（３）業務の対象……1
（４）策定委員会名簿及び業務フロー……2
１．前提条件の整理……3
（１）上位計画・関連計画……3
（２）関連動向の整理……6
２　わんさか大浦パークの現状と課題……17
（１）施設概要……17
（２）運営状況……20
（３）土地条件について……25
（４）既存施設に関する課題の洗い出し……29
（５）わんさか大浦パークの活かすべきコンテンツ……37
３　計画課題の整理……39
（１）地域交流拠点としての課題……39
（２）ハード面での課題　　利便性向上やコスト削減……39
（３）ソフト面の課題　地域連携と外部との接点の仕組みづくり……39
（４）地域特性の発揮と広域連携による集客性の向上……39
４　基本計画……40
（１）整備目標……40
（２）機能強化の方向性……41
（３）ゾーン別機能強化イメージ……43
５　今後の課題……53
参考資料……57

序　はじめに

（1）目的

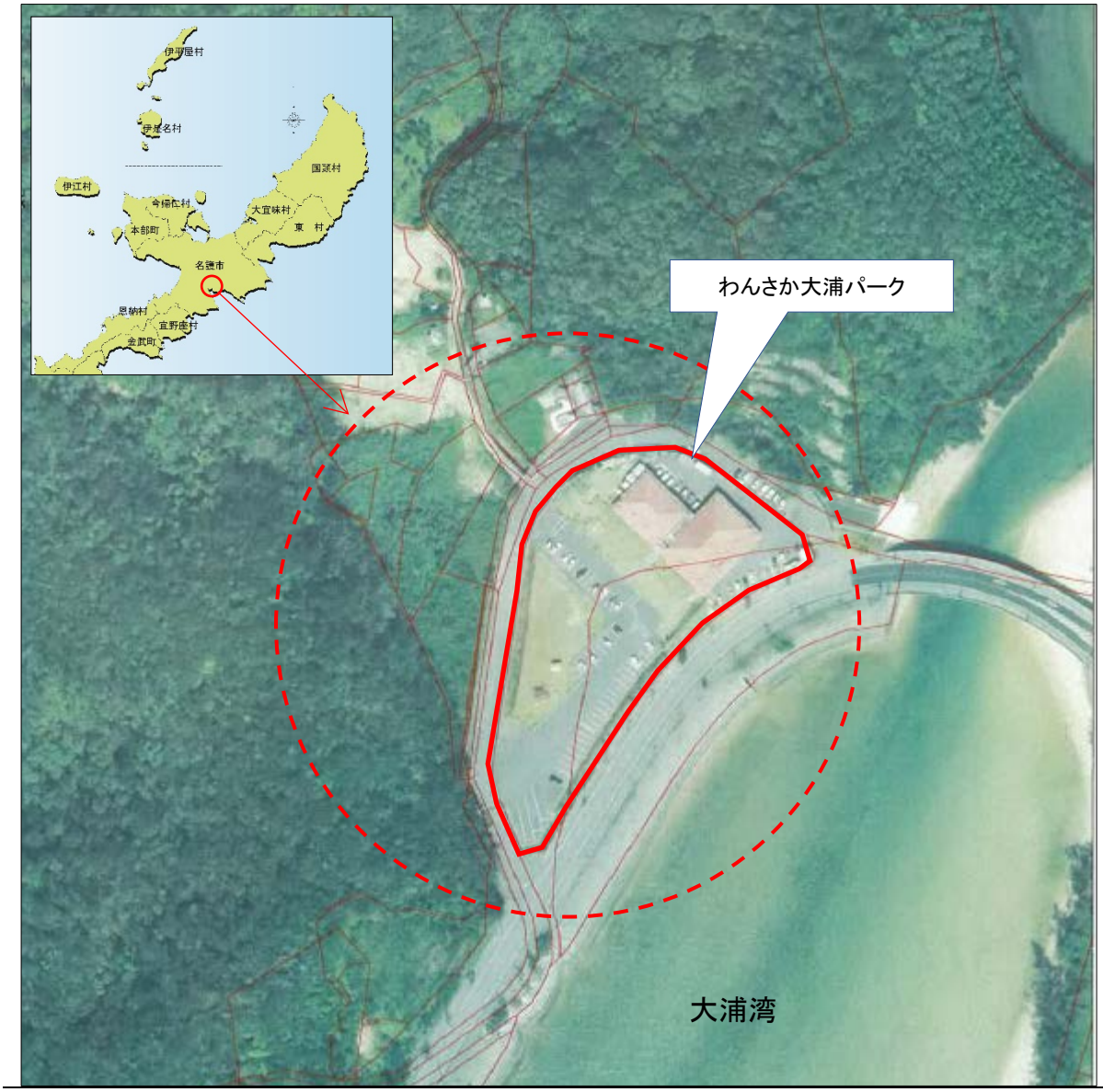
- 本業務は、名護市大浦にある「わんさか大浦パーク」施設と周辺区域を対象とし、本施設の観光機能の強化整備や、観光客や地域住民の利便性向上につながる基本計画の作成を行うものとする。

（2）業務内容

- 前提条件の整理
- 関係者意向調査
- 基本計画（案）の策定
- 「わんさか大浦パーク機能強化基本計画策定委員会」の設置

（3）業務の対象

業務の対象は、名護市東海岸の大浦区に位置する「わんさか大浦パーク」（名護市東海岸地域（二見以北 10 区）における地域交流拠点）とその周辺とする。

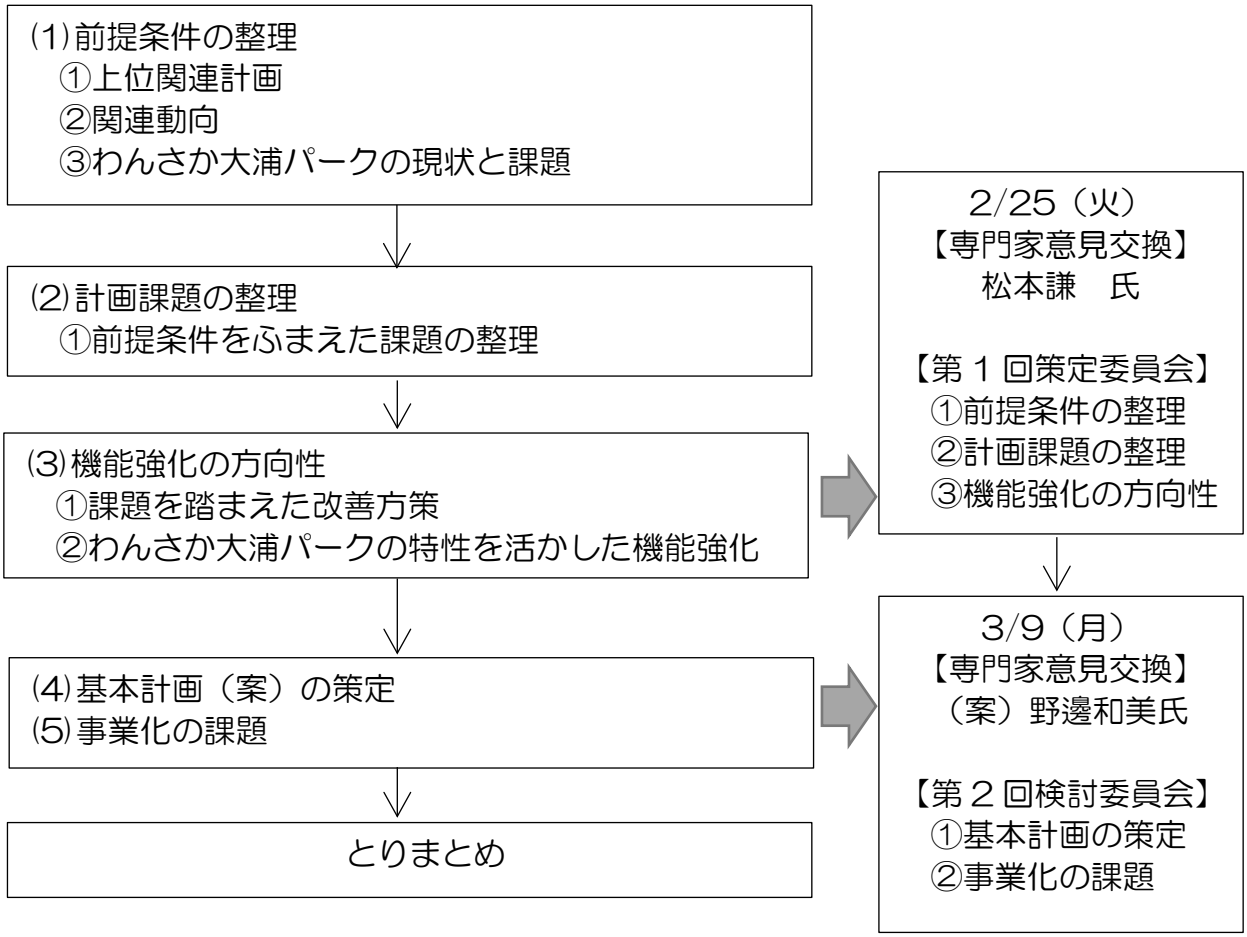


(4)策定委員会名簿及び業務フロー

【策定委員会名簿】

区分	氏名	所属	備考
委員	宜寿次　聰	二見以北地域振興会　二見区長	
委員	兼濱　富男	二見以北地域振興会　瀬嵩区長	
委員	深田　友樹英	わんさか大浦パーク	
委員	野原　シマ子	農業関係者（生産者）	
委員	江利川　法孝	久志地域交流推進協議会	
委員	吉田　正志	名護市地域政策部　久志支所　支所長	
委員	金城　圭	名護市地域政策部　振興対策室　室長	座長

【今年度の業務内容】業務フロー



【専門家招聘】

松本謙氏
(株)ファーマーズフォレスト代表取締役
・中小企業診断士
・6次産業化プランナー
・道の駅宇都宮ろまんちっく村をはじめ、全国で道の駅などの運営を手掛ける

野邊和美氏
道の駅酒谷　駅長
酒谷むらおこし株式会社　取締役
・宮崎県日南市にある道の駅酒谷は、「住民サービス」部門でモデル見駅に選出された。

1. 前提条件の整理

(1)上位計画・関連計画

①名護市東海岸地域(二見以北 10 区)における地域交流拠点基本計画(H17.3)

- 当計画は、名護市東海岸地域（二見以北 10 区）について、地域の活力を取り戻すため地域の基幹産業である農業の振興支援、観光・リゾート産業との連携による産業の活性化を基本として、地域の定住と交流の促進及び利便性の確保などの生活環境や住民福祉の向上を視野に入れた地域づくりを目的として実施されたものである。
- 計画にあたっては、地域の問題点や課題の整理から、地域の交流促進と産業振興の方向性を示し、必要となる機能の抽出と、これらの事業化の推進拠点となる「地域交流拠点施設」のあり方を検討するとしている。
- その後「地域交流拠点施設」が事業化されたのが、「名護市二見以北地域交流拠点施設＝わんさか大浦パーク」となっている。

【地域振興の基本目標】

顔の見えるコミュニティの再生

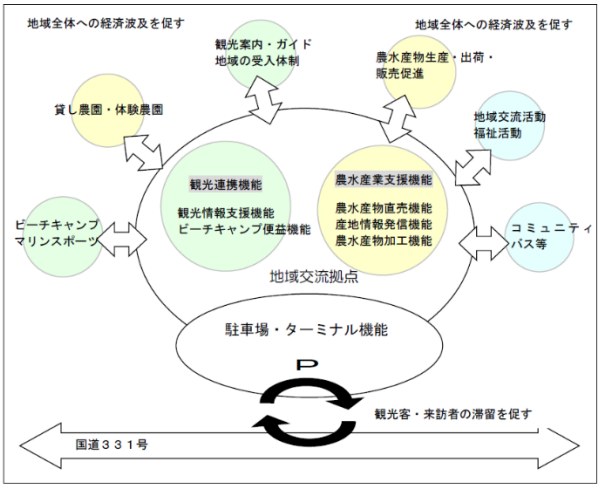
- 高齢者が生き甲斐を持って暮らせる地域
- 若者が安心して働き、子供を育てる地域
- 子供が安心して学び、遊び、育まれる地域

【地域交流拠点と各機能の連携方策】

地域交流拠点は、地域活性化に必要な機能を集約し、地域全体の産業活性化、交流を促進する。

特に、農水産物の生産・流通・販売を促進する機能を設けるとともに、消費拡大に向けては観光客等、地域に訪れる来訪者等の滞留を促し、利用を促進する機能を設ける。さらに、地域の資源や産物をＰＲし、県内外への販路の拡大を図る。

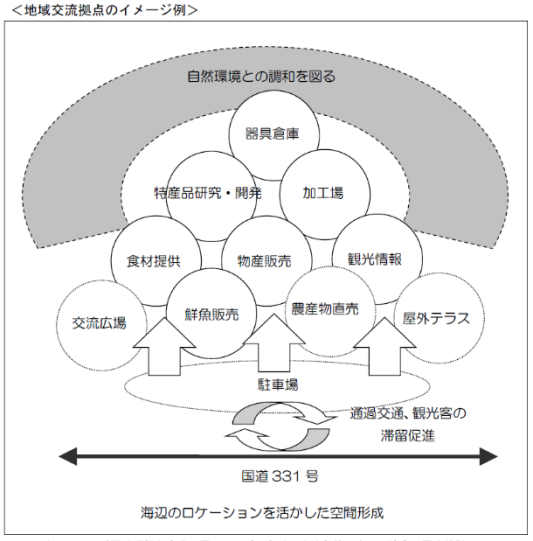
これにより交流拠点機能自体の収益性を高める。交流拠点では、地域全体の生産性の向上や商工観光等に至る利用や購買を促し、波及効果を拡大する。



【施設形態・規模の基本的考え方】

- 地域交流拠点の形成にあたっては、これまでに検討された中から、収益性の高い機能を中心として必要な機能の集積を図り、一体的な運営を図ることが望まれる。
- 各施設の規模については、地域における物産の供給量、人員配置、維持管理費等、実際の運営見通しを踏まえて、設定する。
- 施設の立地については、国道沿いにあって、通過交通の立ち寄りに有利な条件を備えるとともに、海や山の自然環境に囲まれ、ロケーションに優れていることなどの条件を勘案することが望まれる。

＜地域交流拠点のイメージ例＞



※ 上のイメージ図は理想とする配置イメージであり、土地条件に応じて適宜配置を検討する。

資料:名護市東海岸地域(二見以北 10 区)における地域交流拠点基本計画(名護市　H17.3)より

②第5次名護市総合計画（本年度策定）

- 名護市では、平成 30 年度～令和元年度に、第５次総合計画を策定している。策定にあたっては、市民ヒアリングや地域別ワークショップ「よってたかってゆんたく」、市民アンケートなど、名護市に係るたくさんの方々が参加し、計画づくりを進めてきた。
- 第５次総合計画では、まちづくりのテーマを「つなぎ、創る・しなやかな未来」とし、地域別にワークショップが開催され、地域別計画が策定された。わんさか大浦パークの所在する久志地区の地域別計画では、将来像を「日昇るまち」として、取り組み方向性の一つに「わんさか大浦パークの交流拠点機能の充実」が挙げられている。
- 重点プロジェクトの一つには、「わんさか大浦パーク・共同売店の活用プロジェクト」が挙げられている。

【第 5 次名護市総合計画 「久志地域計画　まちづくりの方向性」より抜粋】

資料：第 5 次名護市総合計画

③ わんさか大浦パーク・共同売店の活用プロジェクト

背　景

わんさか大浦パークは地域の拠点として人々に親しまれており、地域に密着した交流拠点機能や生活を支える拠点となる機能など、地域に密着したさらなるサービスの充実が求められています。また、地域別ワークショップやカフェイベントを通して、病院、買い物支援など、生活支援の充実に多くの関心が寄せられました。わんさか大浦パークの機能をさらに充実させていくとともに、その他、共同売店などと連携した、地域の支え合いのしくみづくりが求められています。

プロジェクトの概要

わんさか大浦パークや共同売店を基点に、買物支援、見守りなどの暮らしを支え合えるしくみづくりを目指します。生産者の見える化（地産地消）、インターネットを活用した買い物支援や見守り支援など、地域の人たちが互いに助け合うために、さまざまな役割をシェアできるような情報収集やコーディネート機能を整備します。また、買い物を楽しめる場であるとともに、チャレンジショップの取り組みや様々な情報収集ができる場となること、さらにはビジネス創出のための講座の開催やプランづくりを支援するなど、ビジネス創出の拠点や、地域の人たちのゆんたくの場となるとなることを目指します。

効　果

- でかけなくても必要なものが身近で手に入るしくみができる
- わんさか大浦パークの集客につながる
- ゆんたくの場が地域の中に増えることで、見守りの役割も果たすことができる

具体的な取組みアイデア

- 共同売店でインターネットでの購入の代行を行う
- わんさか大浦パークを産業の拠点にしていく
- 地元企業と連携して、資源や人材などを提供してもらえるようなしくみづくりのための話し合いの場をつくる
- ローカルビジネス、コミュニティビジネスの起業に関する相談窓口を設置する。将来的には講座など学ぶ機会をつくる

想定される連携先

- 地域経済部　● 久志支所
- 企画政策課　● わんさか大浦パーク
- 共同売店　● 商工会　etc.

(2)関連動向の整理

①人口

- 名護市の人口は、62,626 人（H31.3）で、平成 27 年の国勢調査時よりも増加している。
- 久志地区の人口は、4,321 人（H31.1）で、名護市総人口の 6.9%。二見以北 10 区は 1,420 人と、平成 23 年のわんさか大浦パークオープン時よりも減少している。

表　名護市及び久志地区・二見以北 10 区の人口

	人口	比率
名護地区	36,289	58.0%
羽地地区	8,974	14.3%
久志地区	4,321	6.9%
屋部地区	11,573	18.5%
屋我地地区	1,445	2.3%
合計	62,602	100.0%

資料：住民基本台帳人口（平成31年3月31日現在）

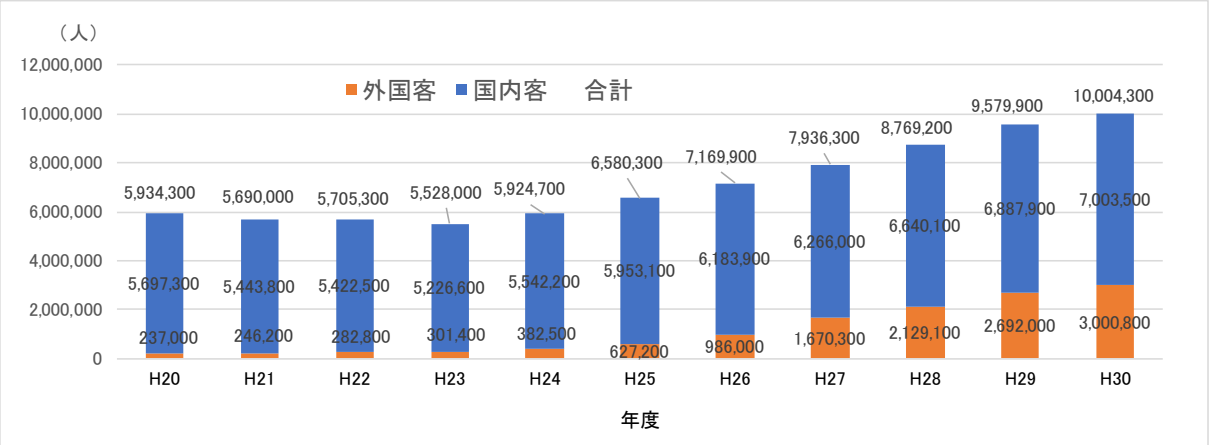
	H23年3月末	H31年1月
名護市全体	60,160	62,602
久志地区	4,837	4,321
うち二見以北10区	1,832	1,420

資料：住民基本台帳

②観光客数の急増

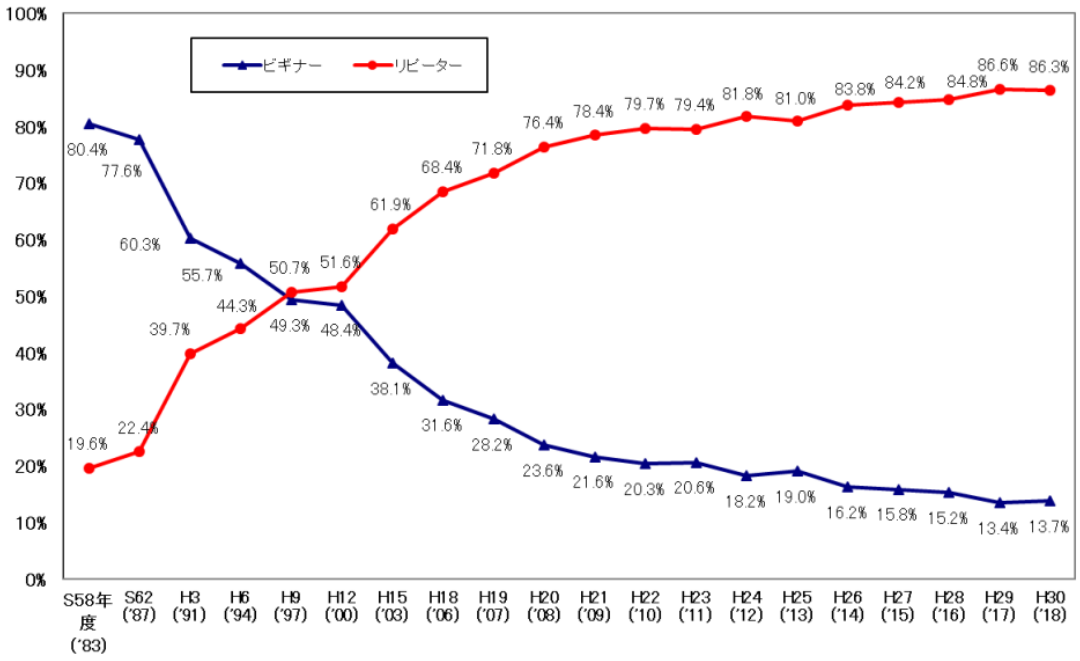
- 沖縄県の入域観光客数を直近 10 年でみると、平成 24 年度ころから急速に増加し、平成 30 年度は 10,004,300 人に達している。
- わんさか大浦パークオープン時の平成 23 年度と比較すると、4,476,300 人増加し、約 1.8 倍となっている。
- こうした観光客の増加は、主に外国客の急増によるところが大きく、平成 20 年度の外国客の比率が約 4.0%に対し、平成 30 年度は約 30.0%と大幅に伸びている。

図　沖縄県入域観光客数（直近 10 年間）



資料：観光要覧（沖縄県）　注）H30 年度の数値は令和元年 11 月 26 日発表の修正数値である。

図　国内観光客　初回来訪率とリピーター率の推移



※出所:沖縄県「観光統計実態調査」
※H12年度、H15年度、H18年度は航空機内で行った大規模調査による数値

表　国内観光客の訪問先

(%)

	H30年度	第1回・5-6月 (4-6月期)	第2回・7-8月 (7-9月期)	第3回・11月 (10-12月期)	第4回・1-2月 (1-3月期)
那覇	66.4	64.0	62.7	69.9	69.0
本部半島	29.3	27.2	33.1	26.1	30.5
北部西海岸	27.7	27.2	28.3	26.8	28.4
中部西海岸	27.4	27.1	28.1	24.2	30.3
南部	22.1	22.3	20.6	20.5	25.4
石垣島と周辺離島	15.8	17.2	17.1	14.2	14.8
中部東海岸	13.6	12.8	14.1	12.1	15.5
宮古島と周辺離島	10.2	10.6	11.6	9.3	9.1
北部東海岸	7.8	8.1	6.6	6.8	9.8
やんばる	6.6	6.9	5.0	5.9	8.7
久米島以外の本島周辺離島	3.7	3.1	5.5	2.7	3.3
久米島	1.7	1.9	1.8	1.2	1.8
その他	0.8	0.5	0.8	0.6	1.2

(注)移動で通過しただけの場所は除く。構成比は無回答割戻し後(以下同じ)。
※年度の構成比は、第1～4回調査の構成比を四半期毎の入域観光客数をウェイトとしてサンプルに重みづけを行う加重平均によって算出した。

③世界自然遺産登録に向けた動き

- 世界自然遺産登録を目指す「奄美大島、徳之島、沖縄本島北部および西表島」について 2017 年に推薦書が提出されたが、米軍北部訓練場の一部返還地の位置付けを巡って IUCN が「登録延期」を勧告し、登録は見送られた。
- いったん推薦書を取り下げたが、2019 年 2 月に再提出し、10 月には再び IUCN による視察が行われている。
- 登録の可否は 2020 年夏ごろ世界遺産委員会で決定する。

表　世界自然遺産登録に関する動き「奄美大島、徳之島、沖縄島北部および西表島」

2017 年（H29）	2 月	ユネスコ世界遺産センターへ推薦書を提出
	10 月	国際自然保護連合（IUCN）による現地調査
2018 年（H30）	5 月	国際自然保護連合（IUCN）による評価結果の勧告
	6 月	ユネスコ世界遺産センターから推薦書を取下げ
2019 年（R1）	2 月	ユネスコ世界遺産センターへ推薦書を再提出
	10 月	国際自然保護連合（IUCN）による現地調査
2020 年（R2）	8 月ごろ	IUCN は登録の可否を 2020 年夏ごろ世界遺産委員会で決定

④本部港国際旅客船拠点形成計画（平成 30 年 1 月）

- 本部港は平成 29 年に、国土交通省における「官民連携による国際クルーズ拠点」に選定され、2020 年からの本格的寄港（初年度 88 回の計画）が予定されていたが、岸壁の完成が遅れている。（新聞記事より）

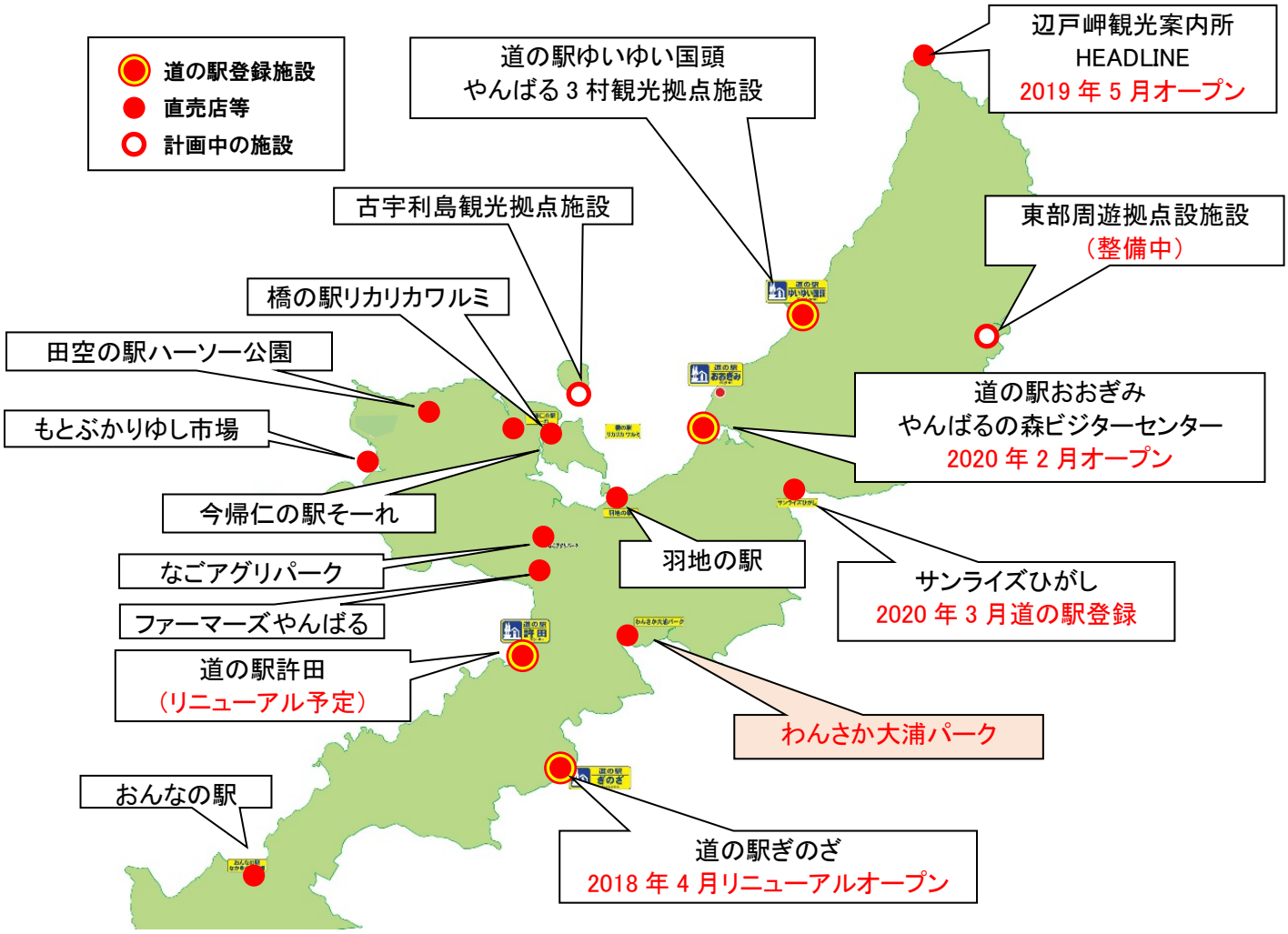
図　本部港官民連携国際クルーズ拠点形成計画書（目論見）の概要

応募者	沖縄県、ゲンティン香港
国際クルーズ拠点形成の目標	国際クルーズ拠点を形成することにより、北部地域の豊かな自然環境を活用したエコツーリズムや海洋レジャーの促進、新たな観光ルートの形成など、沖縄本島北部地域の振興に資する観光拠点を目指す。
寄港回数の目標	運用開始年（H32年）：　88回 目標年　　（H42年）：104回

出典：「計画書（目論見）の概要」（平成 29 年、国土交通省）

⑤拠点施設等の整備進展

- 北部地域では、地域資源を生かし、増加する観光需要を取り込もうと特産品販売施設等の整備が進んでいる。（うち５施設が国交省の「道の駅」に登録されている。）
- 近年では、道の駅ぎのざリニューアルオープン（2018.4）、辺戸岬 HEADLINE（2019.5）の新規オープンに続き、2020 年２月、道の駅おおぎみが移転し「やんばるの森ビジターセンター」としてオープンしている。2020 年３月には東村の「サンライズひがし」が道の駅に登録された。さらに、道の駅許田もリニューアル予定であり、古宇利島や国頭村東部にも拠点施設の建設予定がある。
- 今後はそれらの施設との連携と棲み分けが期待される。



道の駅ぎのざ
2018 年 4 月リニューアルオープン

辺戸岬観光案内所 HEADLINE
2019 年 5 月オープン

道の駅許田
リニューアル計画

道の駅おおぎみ
2020 年 2 月 22 日グランドオープン

⑥沖縄北部テーマパークの計画

- 複数の民間企業で創る「株式会社ジャパンエンターテイメント」により、名護市羽地地区と今帰仁村にまたがる「オリオン嵐山ゴルフ倶楽部」の敷地にテーマパーク建設が計画されている。

- 令和元年７月に、株式会社ジャパンエンターテイメントから、沖縄県に「計画段階環境配慮書」が提出され、知事意見書が示されている。

表　沖縄北部テーマパーク手続き状況

手続状況	配慮書手続終了
事業名称	沖縄北部テーマパーク事業
事業者	株式会社ジャパンエンターテイメント
事業の種類	スポーツ若しくはレクリエーション施設の建設又は変更の事業
事業規模	約64ヘクタール
事業実施区域	今帰仁村呉我山地内及び名護市字古我知地内の一部
関係地域	今帰仁村、名護市、本部町
これまでの手続状況	１　計画段階環境配慮書 ・縦覧期間：令和元年9月2日（月曜日）～令和元年10月7日（月曜日） ・知事意見：令和元年10月10日

資料：沖縄県環境部環境政策課

- １１月以降、テーマパークの施設配置が異なる２案の中から１案に絞り込み、１２月にはアセスメントの次の段階となる「方法書」の手続きに入る予定で、事業計画の策定も合わせて進める。

- 2021 年度半ばまでに全てのアセスメントを終えて、工事に着手。４年間かけて土地の造成と建物を建設し、25 年ごろの営業開始が計画されている。

⑦北部東海岸の動き

ア　二見以北 10 区

【オープン後の二見以北の主な動向】

・わんさか大浦パークオープン
　平成 23 年（2011）　３月

・国道 331 号二見バイパス開通
　（名護市二見～大浦）
　平成 23 年（2011）　３月

・二見情話の里ミュージックライン
　（メロディーロード）開通
　平成 24 年（2012）

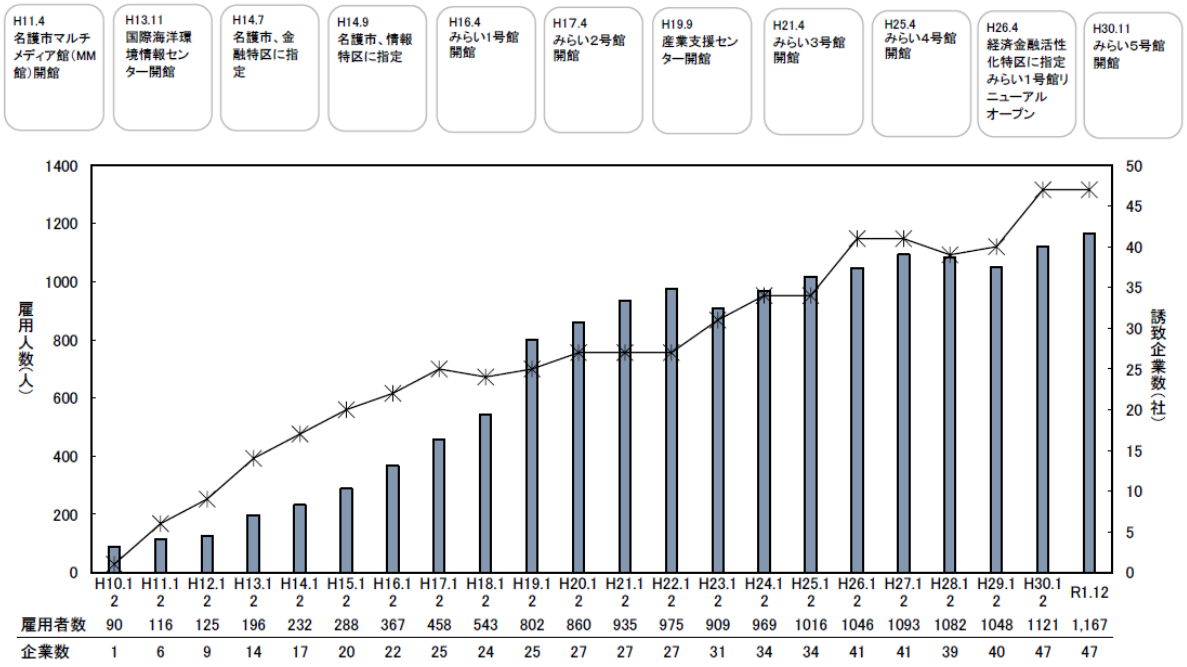
・緑風学園開校
　平成 24 年（2012）

・久志交流推進協議会設立
　平成 24 年（2012）

・マングローブロード開通
　平成 27 年（2016）

イ 久辺3区

- 久辺３区では金融・情報通信国際都市形成計画に基づいて、まちづくりが進められている。平成 11 年に開館した名護市マルチメディア館をはじめ、国際海洋環境情報センター（GODAC）、沖縄北部雇用能力開発総合センター、みらい１号館～５号館が立地している。
- 名護市は、情報通信産業振興地域、情報通信産業特別地区。経済金融活性化特別地区に指定されており、金融・情報通信関連企業の集積に取り組んでいる。
- これらの取り組みにより、令和元年 12 月現在名護市全体で 47 社、1167 名の雇用がある。（名護市産業支援センター含む）



資料：特定非営利活動法人NDA　HP　http://nda.city.nago.okinawa.jp/

- 沖縄工業高等専門学校は、全国 51 の国立高専の中で一番新しく、15 年前に創設され、中学卒業後の 5 年間にわたる一貫した技術者教育を行う国立高等教育機関である。定員は本科 800 人、専攻科 48 人となっている。

ウ　宜野座村

【道の駅ぎのざ】

- 東海岸で唯一の道の駅として2018年4月にリニューアルオープンし、当年4月から翌年3月末までに約６３万人が来場。大型遊具施設やカフェ・売店などを併せ持つ新しいコンセプトを持つ道の駅である。
- 近隣に所在するパークゴルフ場は子供からご年配の方まで楽しめ、年間2万7千人（H30実績）が訪れている。

【株式会社かりゆしによるホテル計画】

【AHSホールディングスによるホテル計画】

【沖縄県農業大学校が宜野座村へ移転決定】

【いちご狩りの人気が急上昇】

エ　金武町

【ギンバル訓練場跡地開発】

・　金武町では、町の活性化を図るために平成 20 年 1 月に日米合同委員会で全面返還が合意され、平成 23 年に返還されたギンバル訓練場の跡地利用計画を推進している。

・　その地域の特性を活かしたウェルネスの里づくりを目指し、ギンバル訓練場の跡地利用計画として策定された事業が「金武町ふるさとづくり整備事業」である。

・　当該事業は、地域医療施設及びリハビリ関係施設の他、野球場、サッカー場をはじめ、海浜公園の整備が進められている。海岸にはホテルの計画もある。

オ　東村

【福地川海浜公園】

・　東村の福地川海浜公園は、2015 年にオープンした海浜公園で、キャンプやバーベキュー、海水浴、マリンスポーツなどが楽しめる拠点となっている。

・　慶佐次川などに集中していた観光・レジャー客の分散化などの役割も持つ東海岸の新しい拠点施設である。

・　東村が整備し、東村観光推進協議会が指定管理者となっている。

【サンライズひがし】

・　2020 年 3 月 13 日、沖縄県内における東海岸で 2 番目の道の駅として登録された。世界自然遺産登録候補地の「やんばる国立公園」への観光窓口として期待されている。

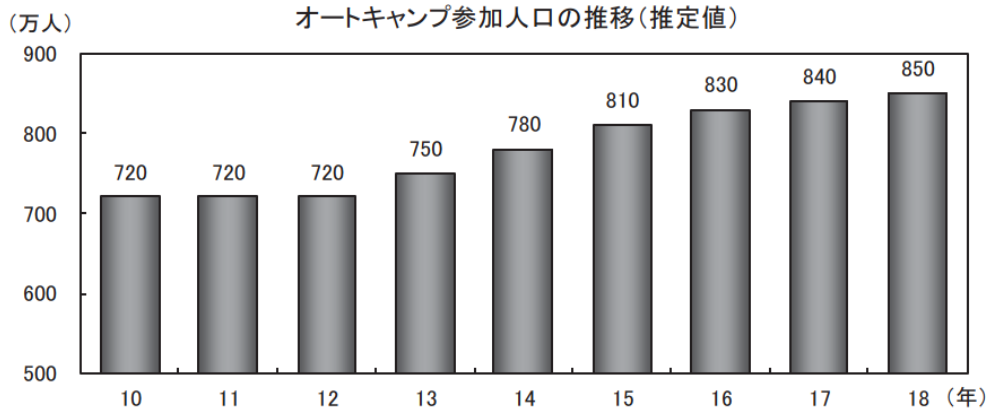
カ その他関連動向

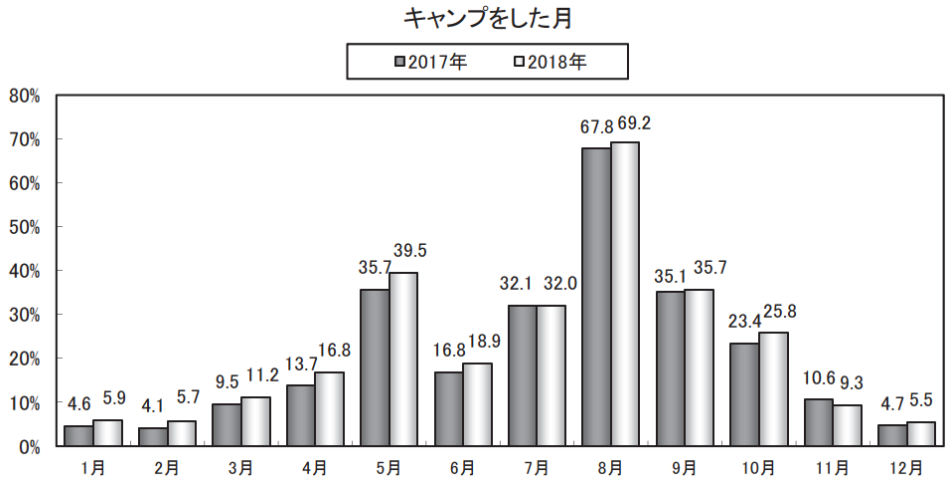
【アウトドアキャンプ需要の増加】

・ 一般社団法人日本オートキャンプ協会の発行する「オートキャンプ白書 2019」によると、2018 年の「オートキャンプ参加人口」は 850 万人と 2017 年の 840 万人を 1.2%上まわり、6 年連続して前年比がプラスとなった。

・ 2018 年の特徴として、「ソロキャンプ」の増加があげられる。You Tube などで芸能人のキャンプが人気を呼び、またメディアなどでもソロキャンプが取り上げられ人気を呼んだ。

・ また、こうしたソロキャンパーを対象としたイベントが、平日に開催されるなど 18 年は平日稼働も注目された。





資料：オートキャンプ白書 2019

参考 アウトドア関連の番組

【名護市テレワーク推進】

・ ＩＴインフラ環境があれば多様に働く場所の選択が可能となる今、首都圏大手企業では、社員の健康、メンタル、モチベーション向上、人材の維持・確保を目的とした、地方における長期滞在型テレワーク導入の需要が高まっている。

・ 地方では首都圏企業のワーケーション（work&vacation）のためのサテライトオフィスの誘致が進みつつある（和歌山等）。沖縄は、観光地としての魅力のみならず、「冬季の避寒、春先の花粉症対策、夏季のワーケーション」という他県にはない働く場所としての特徴を有する。

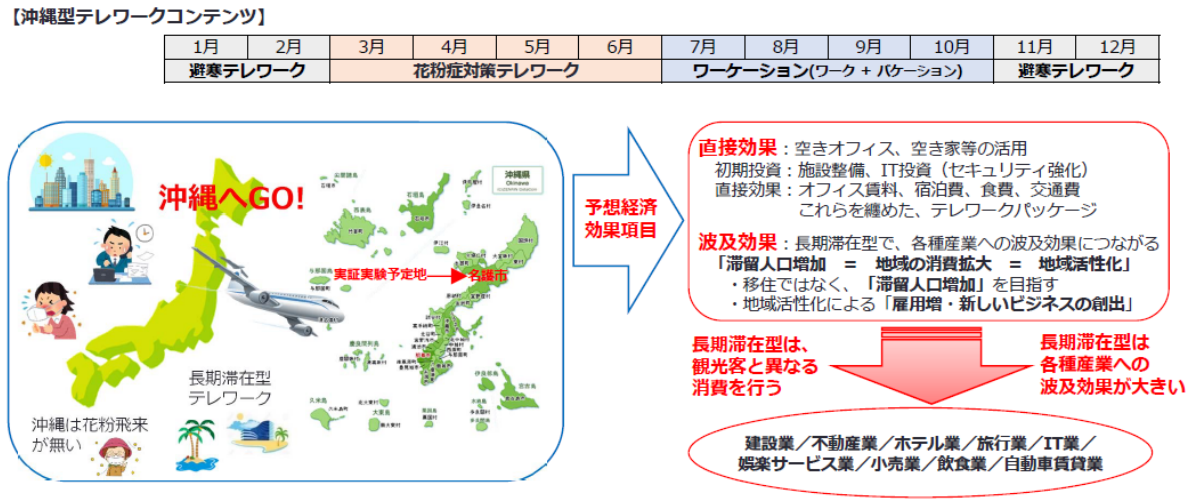
・ サテライトオフィスや長期滞在型テレワークの誘致により、滞留人口の増加に繋がり、観光客とは異なる消費活動や、空き施設、空き店舗の活用、滞在型施設の稼働率向上等の地域経済への波及効果が期待できる。

・ 内閣府沖縄総合事務局では、「冬季の避寒、春先の花粉症対策、夏季のワーケーション※」という沖縄の地域特性を生かした県外企業によるサテライトオフィスの誘致の可能性及び地域経済への波及効果を検証するため、平成３０年度沖縄振興推進調査事業「沖縄における県外企業の長期滞在型テレワークの誘致及び導入検討調査」を実施した。その中で、名護市はその開催地として実証実験に参加し、好評を得ている。

・

※ワーケーションとは
働く（Work）と休暇（Vacation）を組み合わせた造語。IT技術の進展により、時間や場所にとらわれず働くテレワークが普及したことを背景に、新たな就業・休暇スタイルとして欧米を中心に広まりをみせている。

図　沖縄における県外企業の長期滞在型テレワークの誘致及び導入検討調査



資料：沖縄総合事務局　平成 30 年度内閣府沖縄振興推進調査

2 わんさか大浦パークの現状と課題

(1)施設概要

- わんさか大浦パークは名護市東海岸二見以北の 10 区が資金を出しあい、地域のゆたかな暮らしと活気づくりのために運営している海辺の直売所です。
- 地域に暮らす人々の課題やニーズに応じ、地域の魅力（宝）を活かして人の流れと経済循環を生み出していきます。
- 地域資源を活かした商品やサービスを提供しています。そのほかにも地域イベントやカヤック体験、大浦マングローブロードの運営、地元学校への食事提供、特産品の配送、インターンの受入なども行なっています。

事業名　　:名護市東海岸地域(二見以北10区）における地域交流拠点整備事業

事業主体:名護市

供用開始年度:

敷地面積:8、060. 06 ㎡

建築面積:986. 76 ㎡

延床面積:685. 62 ㎡

駐車台数:普通乗用車 46台　大型バス 3台　優先駐車場 2台

＼おみやげに、いつものお買いものに／

わんさか直売所

農産物・加工品

生産者さんが大切に育んできた島野菜や南国フルーツ、そのなかでも生産過多になったり、規格外で売り物にならないものは加工して新たな商品と販売しています。

花木

鑑賞するだけでも楽しいくらい、種類豊富で色鮮やか。育て方が分からないときには、近くにいる農家さんに尋ねてみるとたくさん教えてくれるかも。

工芸品

漆喰でつくる「城間シーサー」や「藤崎紅型工房」をはじめとした地域の作家さん、手芸の得意なお母さんが作ったものなど温かみのある素敵な商品も取り揃えています。

＼地域のもの、おいしいものがわんさか！／

わんさかの食べもの

パーラー商品

パインなど南国フルーツは暑い夏を美味しく楽しむスイーツや、特産品のかぼちゃはカレーパンに。毎日手づくりのポークたまごおにぎりやサーターアンダギーもずっと人気商品。

お食事処　南の畑

地元の人ねーねーたちが島野菜をつかってボリューム満点・栄養満点の定食をつくり、提供しています。大浦湾を眺めながら、お食事をおたのしみください。

海辺の BBQ プラン

手ぶらでBBQができるBBQレンタルセット（要予約）をご用意しています。雨が降っても屋根付きの東屋や、施設内の飲食スペースがあるので安心！詳しくはお問合せください。

【体験プログラム等】

A 大浦マングローブ体験ツアー

わんさかの一番人気のカヤックツアー！
初心者向けなので、お子様のいる家族や女の子におすすめです。

所要時間：約２時間
￥体験料金：子ども　4,000 円　/　大人 5,000 円　(税別)

B 夜明けの日光浴　朝日ツアー

大浦湾から望む沖縄の朝日を、海の上で独り占めできるツアー！
静かで、神秘的な空間で、心も体もリフレッシュ。

所要時間：約２時間
￥体験料金：子ども　5,000 円　/大　人 8,000 円　(税別)

C 静寂のナイトマングローブツアー

灯りのない暗闇に包まれた水上で満天の星空と一緒に浮かぶ異空間のツアーはとても贅沢なひと時。

所要時間：約２時間
￥体験料金：子ども　5,000 円　/　大人 7,000 円　(税別)

D 国指定天然記念物　嘉陽の褶曲ジオツアー

名護市天仁屋にある「嘉陽層の褶曲」を間近で観察できるツアー！
その美しさと大地に生きていることを実感することができます。

所要時間：約３時間
￥体験料金：子ども　5,000 円　/　大人 8,000 円　(税別)

【大浦マングローブロード】

亜熱帯の森とサンゴ礁の海が出会い、交わる場所で命あふれる渚のリズムを感じよう！

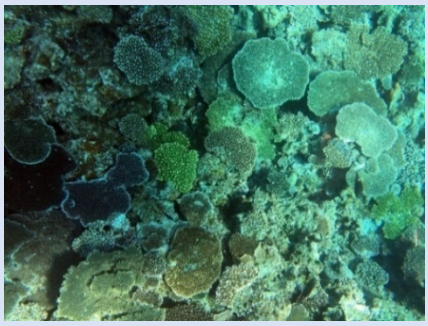
「生命のゆりかご」といわれ、潮の満ち引きに合わせて２つの顔が見えるマングローブ林。
引き潮の干潟には一面のカニ、満ち潮の海には魚があふれる。いま、ここでしか見ることのできない景色のなかで植物や生き物たちに出会うことができます。

￥入場料　ガイドなし（税込表示）
大人　　：360 円
小・中学生：210 円/
未就学児　無料(保護者同伴)

開催時間
年中無休　　※年末年始を除く
４月～10 月　10 時から 18 時（最終入場 17 時）
11 月～3 月　10 時から 17 時（最終入場 16 時）

入場料は大浦マングローブの保全活動やマングローブロードの維持に利活用されております。

大浦湾グラスボート



グラスボートに乗って北半球最大級のアオサンゴを見学できます！
それらは海底から見上げると大きな山のようで、その周りを泳ぐ色とりどりの魚たちは木々を渡る鳥のように。数千年もかけてここに生きるアオサンゴをはじめ、大浦湾の生物多様性の豊かさを覗いてみませんか？

開催時間：10:00/11:00/13：00/14:00/15:00（所要時間は 40 分～50 分）
※出航 10 分前には漁港にお集まりください。また、動きやすい靴でお越しください。

￥料金
大人（高校生以上）：1,650 円
小人（小・中学生）：　825 円
未就学児　無料(ただし、子どものみの乗船ができません)

※キャンセルについて
お客様側の理由による当日キャンセルにつきましてはキャンセル料が発生することがございます。

定員：１回あたり 11 名様まで、※子どもも１名としてカウントします。
チケット販売：わんさか大浦パーク　直売所レジにて

【ガイドツアー】

要予約　マングローブロードガイドツアー
地元在住のガイドから地域の歴史やマングローブについてお話を聞きながら、ゆったりと散策するツアーです。

￥参加料
大人　　：2,000 円
小・中学生：1,000 円
未就学児　無料(保護者同伴)
※上記の金額は入場料も含む。

《ご予約について》
２名様よりご予約を承っております
ご予約は前日 17：00 までに電話またはメールにてご連絡ください。

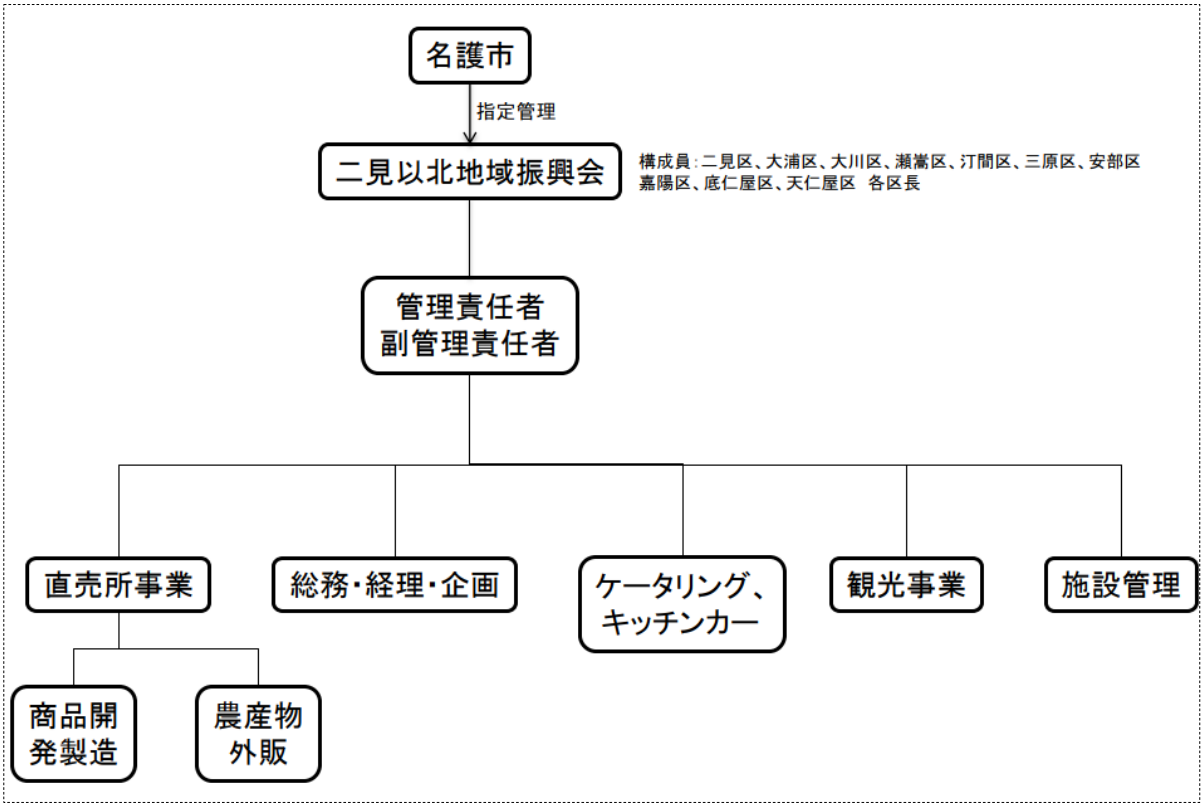
出典：わんさか大浦パーク HP より

(2)運営状況

①運営体制

- わんさか大浦パークの現在の体制を以下に示す。

図 運営体制



資料：わんさか大浦パークより

表 わんさか大浦パークの根っこにあるもの （わんさか大浦パークの採用・求人情報 ホームページより）

■設立の経緯

過疎化が進む名護市二見以北 10 区の存続と発展のために二見以北地域振興会は設立された。わんさか大浦パークをオープンするにあたり、各区 90 万円の資金積み立てを行い、900 万円の資本で平成 22 年に事業を開始。

初年度はお店として運営できる基盤づくりのために、農産物の販売と加工品の開発販売に集中し、2 年目以降に地域ぐるみの交流イベントを複数立ち上げ、カヤック事業に本格的に着手、利用者数も増加した。事業を行う上で設備が不十分だったため公的な支援を受けながらインフラ整備や商品開発を進め、カヤック事業では近隣ホテルと提携するなどして売り上げを伸ばしてきた。

平成 28 年度には新規事業としてパパイヤの卸事業やマングローブ遊歩道の管理がスタートした。出荷者は徐々に増え現在 350 以上になっており、年間 40 種類以上の南国フルーツ、100 種類以上の野菜を販売している。

■経営理念

～笑顔がわんさか 活力あふれる地域づくりの拠点施設～

わんさか大浦パークは地域の魅力を活かした「コミュニティビジネス」と「拠点としての機能」を通して二見以北地域に人の流れと経済循環を生み出し持続可能で活力ある地域コミュニティの実現に寄与していきます。

■ビジョン(実現したいこと)

地域課題を解決するコミュニティビジネスを通して過疎化による地域課題を解決しながら収益をあげ、自立経営を行うと共に利益を地域の発展につながる取り組みや仕組みづくりに投資・還元していく。

わんさか大浦パークの事業が成長していくと共に地域ぐるみで稼げる状況が実現され、地域の経済循環が活発になり、所得の向上、雇用の創出、交流人口、関係人口、定住人口が増加し、地域の豊かな暮らしと仕事とコミュニティが守られ、活気と笑顔あふれる地域が実現されていく。

■ミッション(役割、あり方)

常に地域に暮らす人々の小さな声（困りごとやニーズ）に耳を傾け、人々の望む暮らしと仕事、コミュニティを起点に事業を創造していく。

地域資源と人材を活用し、商品やサービス開発、仕組みづくり、事業化に取り組み、ビジネスや拠点としての機能を通して地域の声を現実化させていく。

私たちは地域に暮らす人の思いや声がカタチになる原動力であり潤滑油のような役割を担う。そして、何を守るために、何を変えるのか問いながら、この地域の暮らしと仕事とコミュニティのあり方を地域の方と共に進化させていく。

■わんさか大浦パークがお客様に提供する価値

1. 朝日のそばで育った地域の魅力が詰まった海辺の直売所。おいしくて楽しいものがわんさか！
2. やんばるの森と大浦湾を望む絶景のロケーションを背景に、パーラーでは地元食材を使ったドリンクやスイーツ、軽食を楽しめ、直売コーナーではお手頃な地元産野菜や果物、花木、工芸品を購入できる地元客も観光客も楽しめるお店です
3. カヤックやマングローブロードの体験では亜熱帯ならではのユニークな生き物たちや、やんばるのダイナミックな森、川、海、のどかな集落の風景を楽しめ、新しい発見と非日常の時間を過ごすことができます。ガイドツアーではガイドとの交流を通して、自分達だけでは気づけない学び・発見があり、さらに充実した時間を過ごせます。

■地域に暮らす方、出荷者に提供する価値

1. 農産物をお客さんに届けられる場所（直売所）が近くにあることで、生きがい働きがい収入が生まれる
2. ちょっとした日常の買い物の場：新鮮野菜果物、軽食、食事
3. 非日常の買い物や時間を過ごす場：地元産品を使ったちょっとしたお土産品、スイーツなどを購入でき、子供たちと芝生などで遊ぶことができたり、年に数回はイベントも楽しむことができる
4. チャレンジの場：商品開発、試験販売の場、集まる場

■スタッフ行動指針

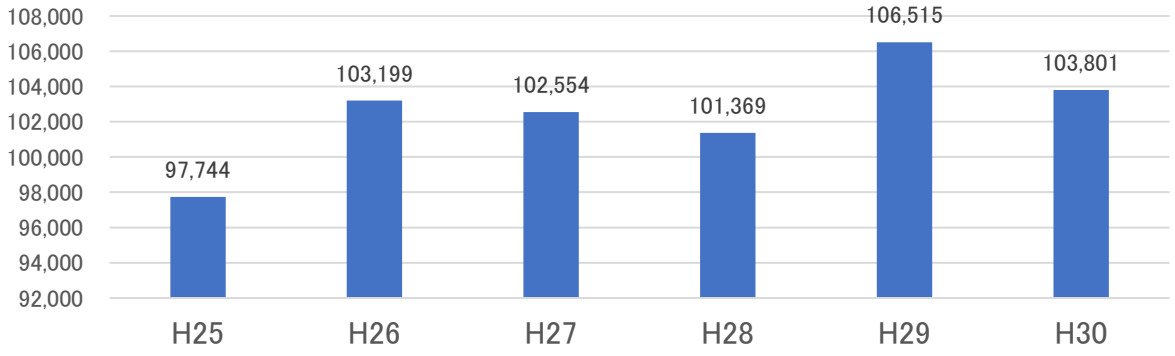
1. ワクワク、楽しいこと、笑顔をわんさか
2. お客様に喜ばれることを徹底的に行い、何度も訪れてもらえるお店を目指す
3. 地域に暮らす方々やお客様、スタッフも含めた関係者との絆を大切にし、互いを想い、心を込めて事に当たる
4. 期待を少しでも超えるために、常に 101%以上行動する

資料:わんさか大浦パークの採用・求人情報　ホームページより

③利用者数

- わんさか大浦パーク（正式名称：二見以北１０区地域交流拠点施設）は、平成 23 年 4 月に供用開始されてから、9 年近くが経過している。
- 平成 25 年度からの利用状況をみると、平成 26 年に 10 万人を超え、その後一時減少傾向が見られたが、平成 29 年に再び増加、翌年にはまた減少するなど、増減はあるものの、年間 10 万人をキープしながら、推移している。
- 月別の利用者を見ると、フラワーフェスティバルが行われる３月が最も多く、それから 4～5 月までが多くなっている。夏場が少ないのが特徴である。

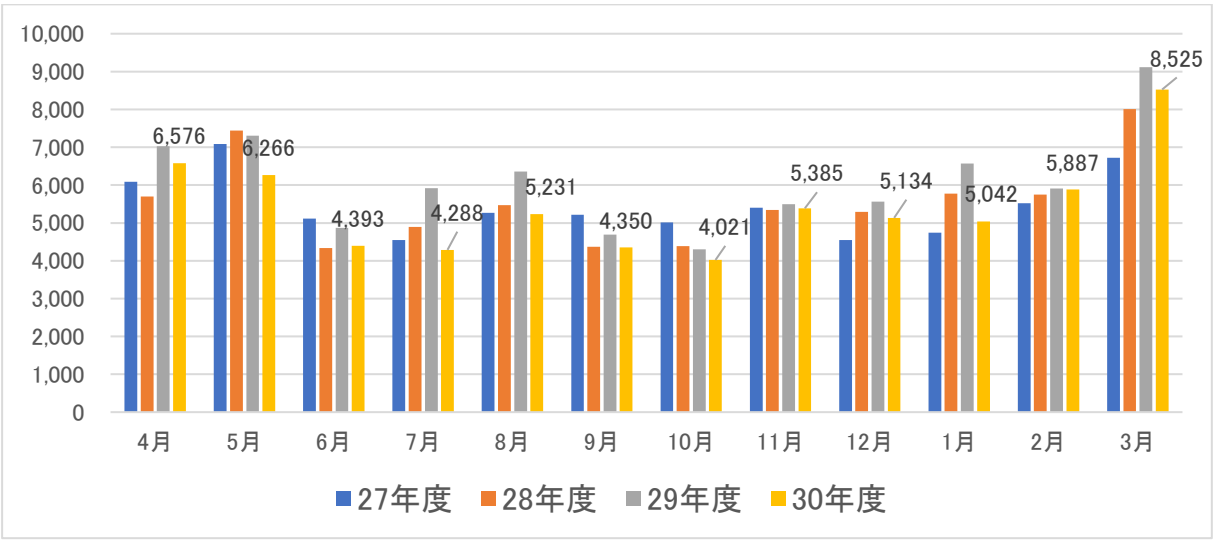
図　わんさか大浦パーク来客数　（テナント、会議室等利用者含む）（H25～30）



資料：わんさか大浦パーク

図　月別来客数レジ通過者のみ　（H27～30）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
27年度	6,089	7,082	5,111	4,545	5,263	5,216	5,011	5,405	4,547	4,740	5,520	6,719	65248人
28年度	5,699	7,437	4,339	4,894	5,472	4,369	4,391	5,343	5,293	5,772	5,745	8,007	66761人
29年度	7,030	7,305	4,867	5,915	6,354	4,689	4,302	5,497	5,559	6,568	5,909	9,114	73109人
30年度	6,576	6,266	4,393	4,288	5,231	4,350	4,021	5,385	5,134	5,042	5,887	8,525	65098人
31年度	6,435	7,565	4,740	5,013	5,064	3,876	4,546	4,907	4,639				46785人



資料：わんさか大浦パーク

④開催イベント

	わんさか行事（イベント）	地域行事	社会行事
4 月			入学式 ゴールデンウィーク
5 月	わんさか子どもまつり（5/3～5）	緑風学園カヤック（5/19） 各地区アブシバレー	ゴールデンウィーク 母の日
6 月	父の日フェア 協力会総会	各地区アブシバレー 緑風運動会	父の日
7 月	マンゴーの日（7/15）フェア		七夕 名護夏まつり
8 月	パインの日（8/1）フェア	名護ハーリー 安部区海神祭	旧盆（8/13～）
9 月		久志駅伝 汀間区綱引・角力大	敬老の日 シルバーウイーク
10 月	三原まつり外販 満月まつり外販		
11 月	二見情話大会 久辺テクノフェスタ（11/23）	ツールド沖縄 名護市民劇	
12 月			クリスマス 正月（年末年始）
1 月	もちつきイベント 1/3		正月（年末年始） ムーチー
2 月		各地区品評会	節分
3 月	フラワーフェスティバル	フラワーフェスティバル	卒業式

二見情話大会（11 月）

フラワーフェスティバル（3 月）

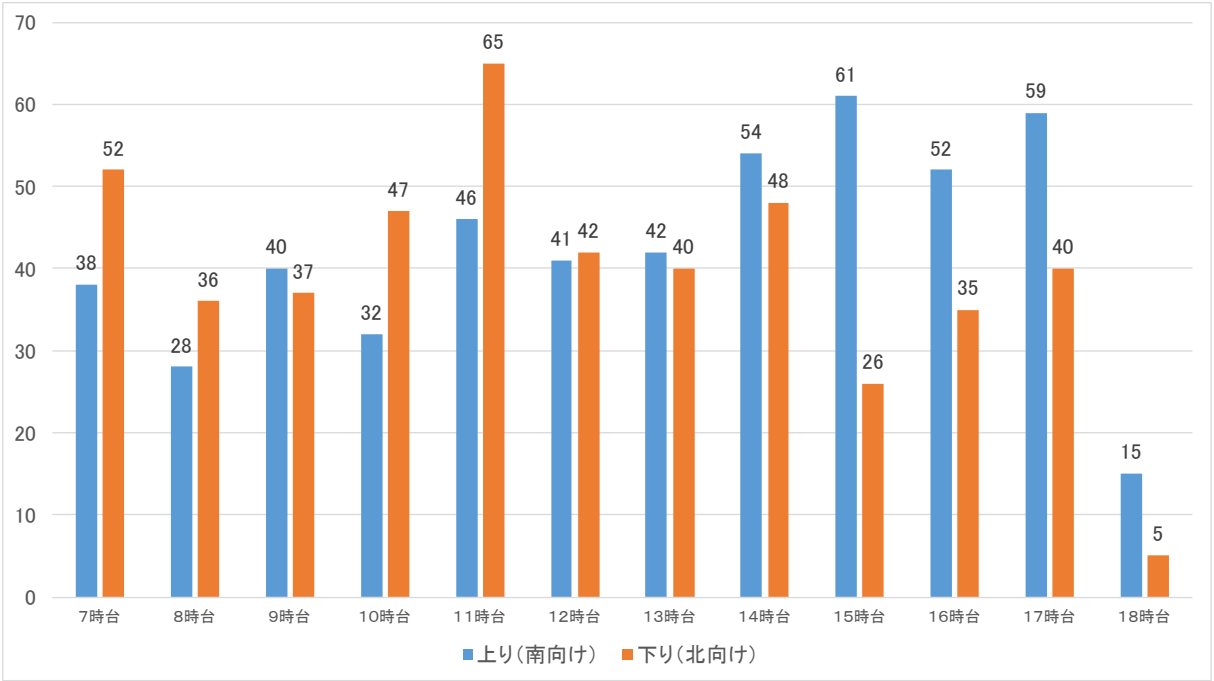
⑤交通量

- 交通センサスの H22、H27 を比較すると、交通量は増加している。
- 時間別でみると、午前中は下り（北向け）が多く、午後は上り（南向け）が多い。

【24 時間交通量調査】 Q11050 区間　 平成 27 年度全国道路・街路交通情勢調査
一般国道 331 号　起点側：一般国道 331 号二見バイパス旧道
　　終点側：剣道 18 号線

	小型車	大型車	合計	備考
平成 22 年度	847	135	982 台	24h 上下合計
	723	131	854 台	12h 上下合計
平成 27 年度	971	157	1,128 台	24h 上下合計
	826	155	981 台	12h 上下合計

【時間帯別交通量　H27　12 時間　981 台　】



※1　道路の路線には起点と終点の位置が決められており、起点から終点に向かう方向が下りです。
　　一般国道 331 号は那覇市を起点として、終点は大宜味村である。

(3)土地条件について

①計画対象地(わんさか大浦パーク及び周辺)

- 対象地は、名護市大浦の国道 331 号の内陸に位置する。平成 23 年にオープンしたわんさか大浦パークの周辺とする。
- 対象地は、国道 331 号沿いとなっている。国道 331 号の名護市の区間は、「補助国道(※)」として沖縄県が管理する区間となっている。

図 対象地周辺図

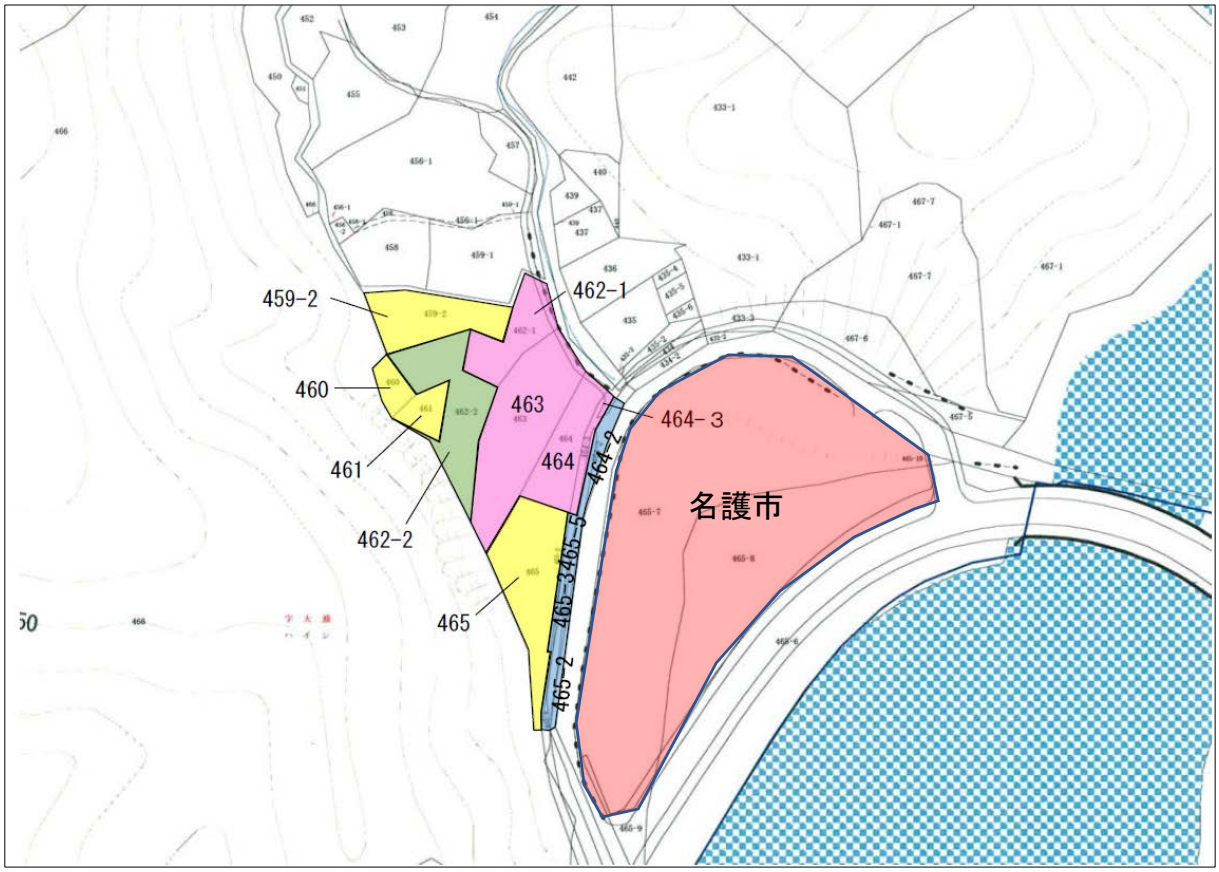
※直轄国道と補助国道　国道には以下の 2 種類がある。

直轄国道	補助国道
国が管理する国道をいい、沖縄総合事務局が管理する国道は以下のとおり(指定区間)	都道府県が管理する国道をいい、沖縄県が管理する道路は以下のとおりです。(指定区間外)
● 国道 58 号線 ● 国道 329 号線 ● 国道 330 号線の内、コザ十字路(沖縄市)から古島交差点(那覇市)の区間 ● 国道 331 号線の内、南部地域の道路 ● 国道 332 号 ● 国道 506 号	● 国道 330 号線の内、古島交差点(那覇市字古島)から旭橋交差点(那覇市字旭町)の区間 ● 国道 331 号線の内、名護市・東村・大宜味村の道路 ● 国道 390 号線 ● 国道 449 号線 ● 国道 505 号線 ● 国道 507 号線
【国の負担・補助の割合】 新設・改築　2／3　負担 維持・修繕　10／10　負担	【国の負担・補助の割合】 新設・改築　1／2　負担 維持　ー　　修繕　1／2以内補助

②土地所有状況

- 対象地周辺の土地所有区分を下図に示す。
- 上記の範囲のうち、2,983 ㎡（約 902.36 坪）が売地となっている。

図　対象地周辺の土地所有区分図



資料：名護市

地番	字	小字	所有区分	登記地目	登記面積	備考
465-3	字大浦	ハイシ	沖縄県	公衆用道路	136.00	
465-4	字大浦	ハイシ	沖縄県	公衆用道路	30.00	
465-5	字大浦	ハイシ	沖縄県	公衆用道路	26.00	
462-1	字大浦	ハイシ	企業	宅地	453.00	
463	字大浦	ハイシ	企業	宅地	1,172.00	
464	字大浦	ハイシ	企業	宅地	476.00	
464-3	字大浦	ハイシ	企業	公衆用道路	105.00	
459-2	字大浦	ハイシ	個人	田	569.00	
465	字大浦	ハイシ	個人	畑	898.00	
460	字大浦	ハイシ	個人	畑	132.00	仮登記
461	字大浦	ハイシ	個人	畑	173.00	仮登記
462-2	字大浦	ハイシ	企業	宅地	777.00	財務省差押
464-2	字大浦	ハイシ	琉球政府	公衆用道路	142.00	
465-2	字大浦	ハイシ	琉球政府	公衆用道路	134.00	
計					5,223.00	

凡例	
	企業
	個人
	琉球政府・沖縄県
	財務省

③土地利用規制現況図

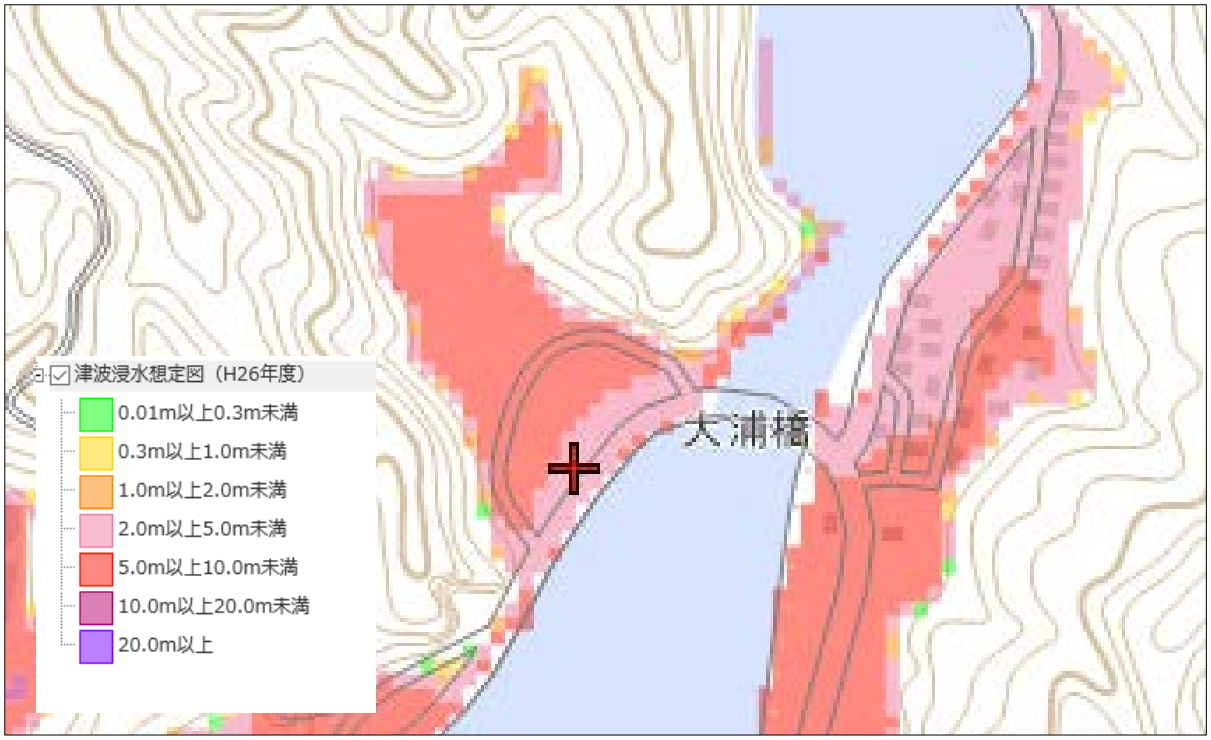
- 対象地の土地利用規制について以下の規制がある。
  都市計画区域：3,000 ㎡以上は県知事の許可が必要である。

図　対象地周辺の土地利用規制現況図

④津波浸水想定

- 対象地周辺の津波浸水想定図によると、国道３３１号沿いは 2.0m 以上 5.0m未満、その背後は、5.0m 以上 10.0m 未満となっている。

図　津波浸水想定図



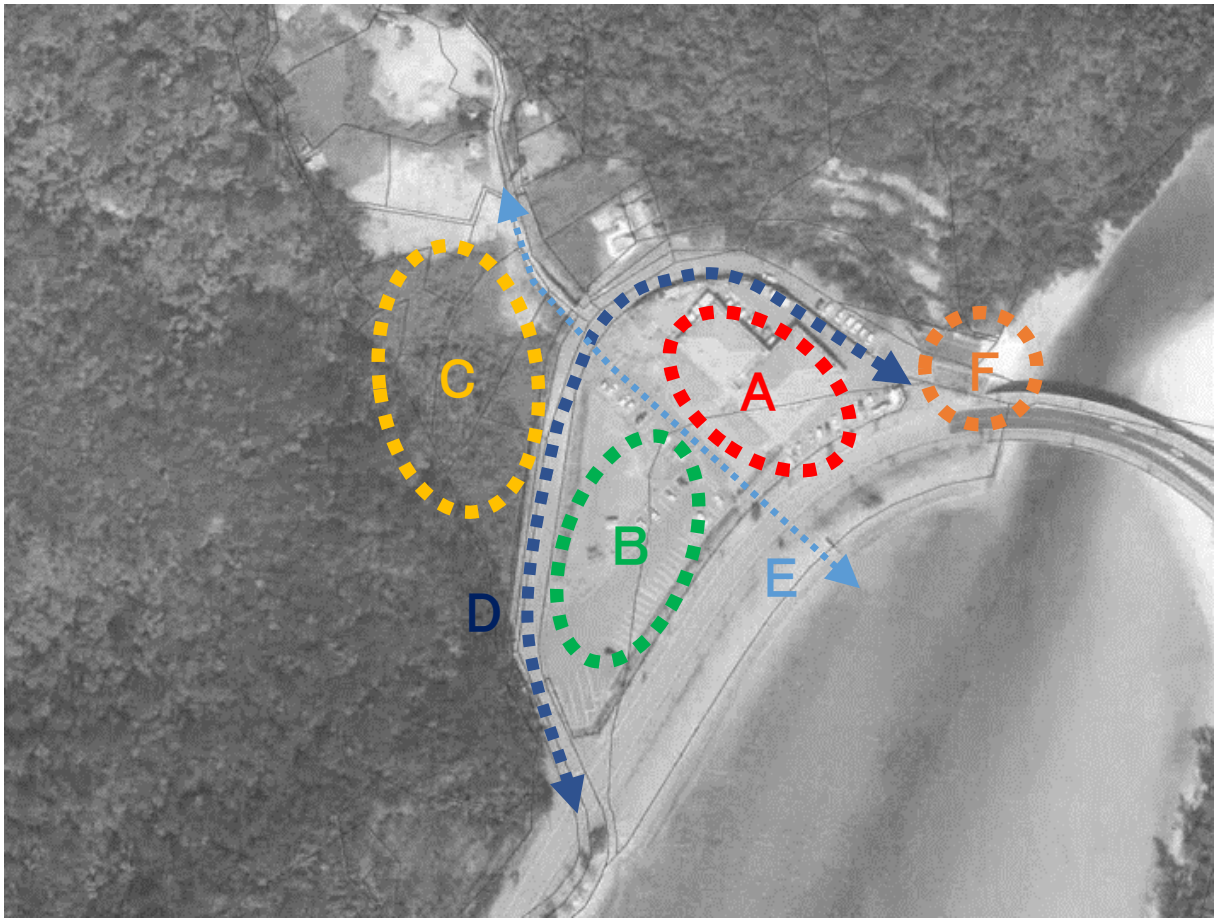
資料：沖縄県地図情報システム

⑤土地利用上の課題（まとめ）

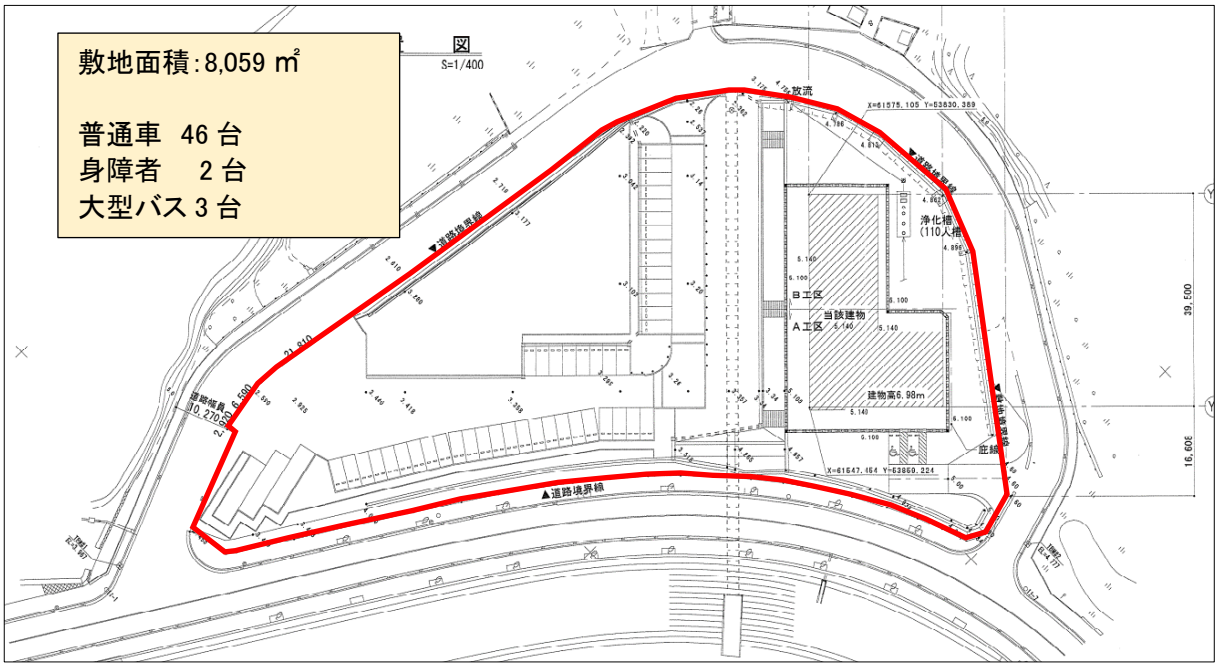
- わんさか大浦パークの機能強化にあたっては、既存施設の問題点や課題を洗い出し、改善方策を検討するとともに、利用拡大に向けては、必要に応じて周辺の土地を含めた機能拡充を検討する必要がある。
- 土地利用にあたって、対象地をいくつかの範囲に分けて、それぞれの課題や留意点を以下に示す。

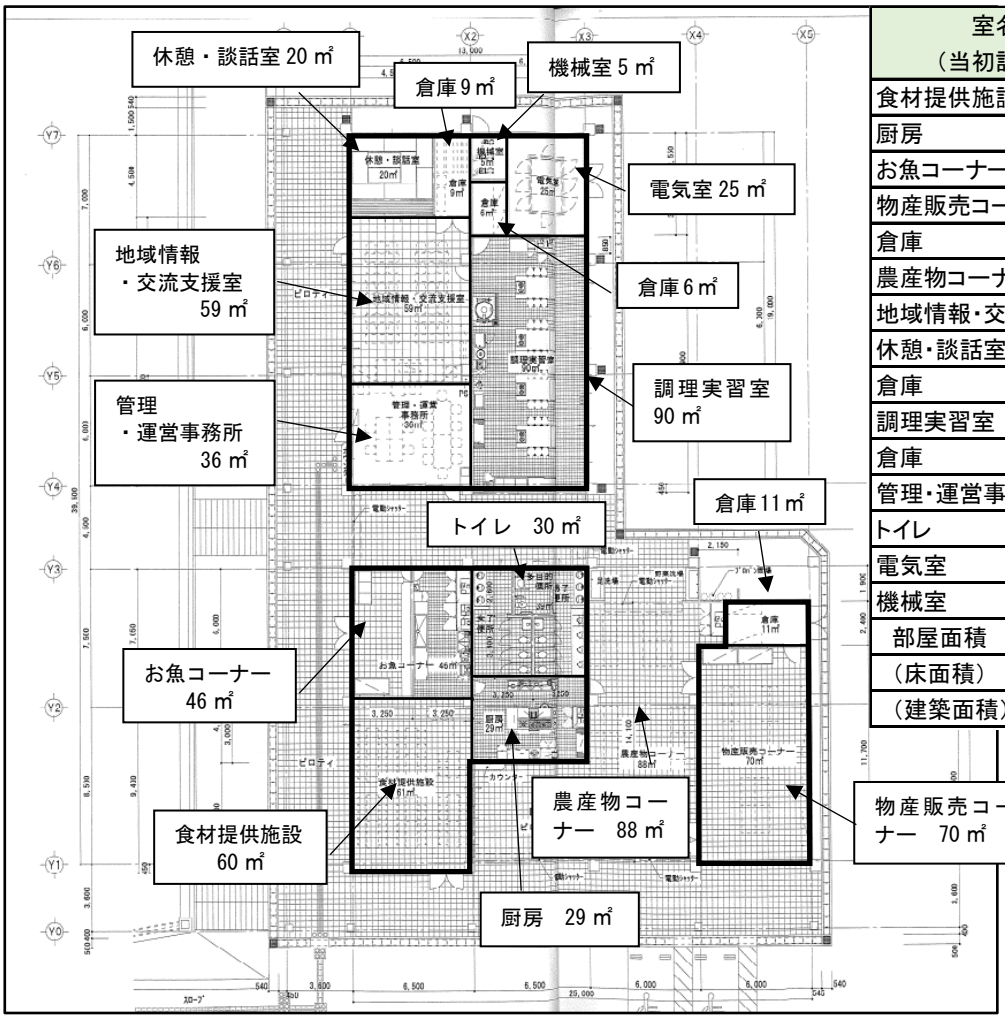
記号	課題・留意点
A	・ 既存の建築施設部分で、施設の問題点や課題を洗い出し、改善に向けた対策を図る。
B	・ 既存の駐車場及び緑地について、イベント時の駐車スペースの問題や緑地（芝生）の有効活用などについて検討する。
C	・ 現在は民有地（企業、個人、その他）であるが、比較的平坦な土地で、売地となっている。機能拡張の必要に応じて土地利用を検討する。
D	・ 国道 331 号の旧道であり、現在は名護市所有地。イベント時には駐車スペース等にも利用している。今後、一体的な活用が検討される。
E	・ 背後地の水路から暗渠となっており土地利用にあたり留意が必要である。
F	・ マングローブロードとつながる部分である。

図　土地利用上の課題



(4)既存施設に関する課題の洗い出し





室名 （当初計画）	床面積 （㎡）
食材提供施設	61
厨房	29
お魚コーナー	46
物産販売コーナー	70
倉庫	11
農産物コーナー	88
地域情報･交流支援室	59
休憩･談話室	20
倉庫	9
調理実習室	90
倉庫	6
管理･運営事務所	36
トイレ	30
電気室	25
機械室	5
部屋面積	594
（床面積）	685.63
（建築面積）	986.760

表　わんさか大浦パーク（二見以北10区地域交流拠点）　現況

【建築物】

	室名 （当初計画）	床面積 （㎡）	現況・課題
食材提供施設			『お食事処　南の畑』がテナント入居している。 約45席 営業時間　11:00～17:00　定休日（火曜日）
	食材提供施設	61	
	厨房	29	
お魚コーナー		46	『スーミー・コーヒー』 がテナント入居している。 営業時間　7:30～16:00　定休日　（月・日・祝）
物産販売コーナー			
	物産販売コーナー	70	地域の工芸品や加工食品を販売している。 施設本体とはピロティ（農産物コーナー）でつながる別棟となっている。
	倉庫	11	物産販売コーナーの倉庫であるが、レンタル用BBQセットなどの備品も収納している。
農産物コーナー		88	ピロティ形式の半屋外で、シャッターを開閉めしている。 わんさか大浦パークの直売所「農産物」として、地域の生産者より入荷している。 レジ付近でパーラーや総菜の店頭販売もしている。
地域情報・交流支援室			
	地域情報・交流支援室	59	地域の会議・研修、打合せ、展示など多様な利用を行っている。（約 30 人収容）
	休憩・談話室	20	地域情報・交流支援室と接続した畳間（和室）であるが、倉庫に入りきらない備品等を置いている。
	倉庫	9	地域情報・交流支援室の倉庫であるが、スペースが不足し、休憩・談話室まで備品があふれている。
調理実習室			
	調理実習室	90	直売事業のうち、商品開発製造を行っている。
	倉庫	6	調理実習室の倉庫
管理・運営事務所		36	管理・運営事務所としてスタッフが勤務しており、狭隘化しつつある。（8デスク）観光案内窓口も兼ねている。
トイレ		30	男子　大3　小4　　女子　大3　多目的　1
電気室		25	倉庫に入りきれない物品が置かれている。
機械室		5	
	部屋面積	604	
	（床面積）	685.625	
	（建築面積）	986.760	

【駐車場・外構】

施設名 （当初計画）	面積 （㎡）	現況・課題
駐車場・通路	2,647	普通車　46 台　　身障者　2 台　　大型バス 3 台
緑地	1,169	芝広場はイベント等で利用されている。 国道沿いは花壇として利用。
その他		建物周りの空きスペースにコンテナ等を設置して倉庫やシャワー室等の機能を補完している。

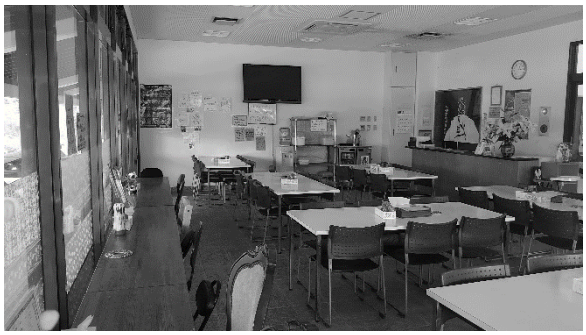
【既存施設の現状と課題】　建築物内諸室　　「※」は問題点

■食材提供施設　61 ㎡

・テナントで『お食事処 南の畑』が入居している（約45席）

営業時間　11:00～17:00　定休日（火曜日）

・地域内外の利用者から親しまれている。



■お魚コーナー　46 ㎡

・テナントで『スーミー・コーヒー』が入居している。

営業時間　7:30～16:00　定休日　（月・日・祝）

・2019 年 11 月にオープンしたカフェ

※テナント（チャレンジショップ等）がもっとあってもいいのではという意見がある。

■物産販売コーナー　70 ㎡

・地域の工芸品や加工食品を販売している。施設本体とはピロティ（農産物コーナー）でつながる別棟となっている。

■倉庫（物産販売コーナー）　11 ㎡

・物産販売コーナーの倉庫であるが、レンタル用BBQセットなどの備品も収納している。

※本来は、物産販売コーナーの商品搬入や保管場所であるが、備品等の保管場所が不足している。

■農産物コーナー　88 ㎡

・ピロティ形式の半屋外で、シャッターを開閉めしている。

・わんさか大浦パークの直売所「農産物」として、地域の生産者より入荷している。

※半屋外のため空調設備が無く、風や雨、気温など野菜・果物等商品保管への影響、衛生面、スタッフの勤務環境として課題がある。

■レジ・販売ブース（農産物コーナー）
・農産物販売コーナーのレジとして、また総菜やアイスクリーム等の販売ブースともなっている。
・体験等の受付も兼ねている。

※1 名体制のため、購買客と体験受付等が重なると対応に支障を来たす場合がある。パーラーは衛生面の課題がある。

■農産物等の保管

※出荷された商品の集荷やストックヤードが無く、屋外に野ざらしで保管されている。

■地域情報・交流支援室　59 ㎡
・地域の会議・研修、打合せ、展示など多様な利用を行っている。（約 30 人収容）

■倉庫（地域情報・交流支援室）　9 ㎡
・地域情報・交流支援室の倉庫である。

※本来はテーブルやイス等の備品の保管庫であるが、別の備品で埋まり、本来の機能が損なわれている。

■休憩・談話室　20 ㎡
・地域情報・交流支援室と接続した畳間（和室）で、休憩や交流の場として設置されている。

※倉庫に入りきらない備品等が置かれ、本来の機能が損なわれている。

■調理実習室　90 ㎡

・調理実習室として店頭販売の総菜など商品開発製造、地域内の学校等にケータリングサービスまで行っている。

※販売用の食品製造の衛生管理として、HACCP 対応が求められる。平成 30 年 6 月 13 日に公布された食品衛生法の改正によって食品の製造、加工、調理、販売などにかかわる事業者は HACCP システムの導入が義務化

■倉庫（調理実習室）　6 ㎡

・調理実習室の倉庫

■管理・運営事務所　36 ㎡

・管理・運営事務所としてスタッフが勤務しており、狭隘化しつつある。（8デスク）

※観光案内等の問い合わせも多く、デスクワークに支障を来たす場合がある。

■トイレ　30 ㎡

・男子　大3　小4

・女子　大3

・多目的　1

※イベント時には穴数が不足し混雑する

※水洗設備としての問題（水量の不足）

■電気室　25 ㎡

※メンテナンススペースに芝刈り機等の備品を補完しているが、本来は物置としての利用は不可。

【既存施設の現状と課題】　建築物周り　　「※」は問題点

■花木販売（物産販売コーナー周り）
・花木の販売スペースは、軒下では収まらず屋外スペースも利用している。

※雨風の影響を受ける。

■休憩・飲食用スペース（軒下スペース）
・軒下にテーブル・イスを設置して休憩や飲食の場として提供している。

※雨風の影響を受ける。

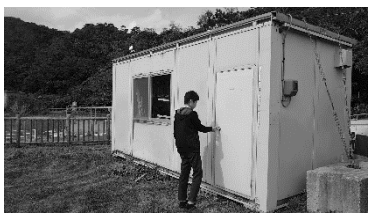
■通路（管理事務所とトイレの間）
・掲示板を設置して、地域情報や展示などを行っている。

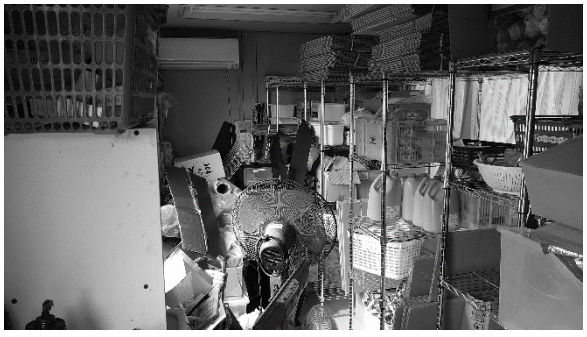
※風雨の影響を受ける。

■物産販売コーナー裏
・設計図面には、「プロパン置き場」とされている。

※木材で仕切りを施し、備品、資材等の置き場として利用している。

■屋外コンテナ①
・休憩・談話室裏手の空地に設置されている。事務所として利用していたが、現在備品等の倉庫となっている。





■屋外コンテナ②、③
・調理実習室前のスペースに設置されている。カヌーの艇庫として利用されている。

※カヌーを重ねて保管しており、重量負荷で変形、破損が懸念される。

■屋外コンテナ④
・シャワー室として加工し、カヌー体験利用者等に提供している。

※仮設設置した簡易的な施設であり、衛生面、耐久性などの課題がある。

【既存施設の状況】　屋外

■駐車場
・普通車　46 台
・身障者　2 台
・大型バス 3 台

※イベント時は不足し、周囲の旧道や空地を借用し対応している。

■緑地
・イベント等で利用している。
※敷地中央部の暗渠上部の芝広場は、水はけが悪く、雨天時やその後も利用の快適性を損なう。

■東屋
・イベント時に、ステージとして利用している。

【既存施設の状況】　その他、現状と課題

■身障者用スロープ

・駐車場と施設に段差があるためスロープが設けられている。

■農産物コーナー前スペ―ス

・身障者駐車場　2 台

・空きスペースは、テーブル・イス等を置いて、休憩や飲食場として提供している。

※海に面したロケーションを有するが、風雨の影響を受ける。

■全体的なサインや動線

※国道からの入口、駐車場からのアプローチ（正面性）、建物内の案内など、わかりやすさが求められている。

■その他、全体に係る課題

※デザインやカラーの統一など
※体験メニューのPR
※防災機能強化
※スタッフの職場環境（休憩、更衣室等）

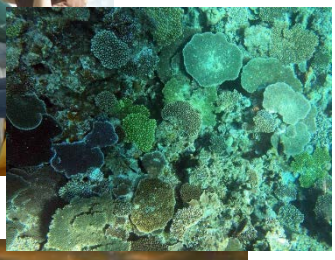
(5)わんさか大浦パークの活かすべきコンテンツ

①自然環境

- わんさか大浦パークの立地の特徴は、なんといっても大浦川、大浦湾、やんばるの山々に囲まれた自然環境。

②アクティビティ

- 優れた自然を活かした豊富なアクティビティは、都会では味わえない本物体験。



③生活文化人との交流

- 地域の生産物、工芸品の展示販売、イベント等を通した地元住民との交流など、沖縄らしさ、やんばるらしさを感じることができる。

④広域的位置づけ

- わんさか大浦パークは、国道 331 号、国道 329 号などでつながる東海岸の宜野座村や東村へのアクセス、また、国道 329 や県道 18 号線を通じて、西海岸とのアクセスも比較的よい場所にある。
- やんばる国立公園、世界自然遺産登録候補地となっている「やんばる３村」への東海岸の入口にあたる場所でもある。

図　わんさか大浦パークと主要な観光拠点の距離と移動時間

注意：距離・時間は googlemap による計測値

3 計画課題の整理

（1）地域交流拠点としての課題

- わんさか大浦パークは、正式名称は「二見以北地域交流拠点」である。常に地域に暮らす人々の小さな声（困りごとやニーズ）に耳を傾け、人々の望む暮らしと仕事、コミュニティを起点に事業を創造していくことをミッションとしている。
- 二見以北 10 区は、わんさか大浦パークがオープンした平成 23 年度以降も人口減少が続き、現在では当時の８割に満たない人口となっている。
- こうした人口減少に歯止めをかけるためにも、人の流れを取り込み、子供から高齢者まで地域の多様な層の人々が集い、賑わい、地域に活力をもたらす場所として機能強化を図る必要がある。

（2）ハード面での課題　利便性向上やコスト削減

- わんさか大浦パークは、供用開始した平成 23 年４月から９年近くが経過しており、施設運営の中で、課題や改善点が見えてきたところである。
- 利用者の利便性、施設運営における利便性などの視点、コスト削減などの視点から課題を洗い出し、今後の改善に向けた取り組みを整理する必要がある。

（3）ソフト面の課題　地域連携と外部との接点の仕組みづくり

- わんさか大浦パークは、「二見以北地域交流拠点」として、地域コミュニティの中核施設であり、地域の人々が集うことで地域内外が交流し、地域に活力をもたらすことが必要である。
- 日常利用の増大に向けては、まず地域の人々のニーズに応えるとともに、地域の人が集まる仕組みを検討し、賑わいを創っていくことが必要である。
- そのうえで、観光客はじめ地域外の人々の接点として、経済循環を生み出す仕組みを創り出すことが必要である。

（4）地域特性の発揮と広域連携による集客性の向上

- 北部地域では、やんばる３村の世界自然遺産登録、東海岸での観光拠点づくりなどに伴い、各地で拠点整備が進んでいる。
- 今後は増大する観光客に対して、やんばる全体に周遊を促進していくことが望まれ、各地の個性を活かした特徴ある拠点を作り、連携することで、地域全体が魅力あるエリアになることが必要である。
- わんさか大浦パークは、大浦川や大浦湾、やんばるの山々の自然に囲まれたロケーション、やんばるの森の入口かつ東海岸の要衝として、また、地域の生活文化、地域の人も魅力として、地域特性を発揮するとともに、世界自然遺産への東海岸の入口として、また、東海岸の入口として広域連携のなかで人の流れを取り込んでいくため、周遊・滞在を促す情報発信機能や休憩機能の強化検討し、相乗効果につなげていく必要がある。

4 基本計画

(1)整備目標

①わんさか大浦パークの経営理念と目指す姿

- わんさか大浦パークでは、名護市二見以北地域交流拠点施設として、下記のような経営理念、ビジョン、ミッションを示している。
- 機能強化にあたっても、経営理念に基づいて、ビジョンやミッションを実現していくことが望まれる。

（再掲）

■経営理念

～笑顔がわんさか 活力あふれる地域づくりの拠点施設～

わんさか大浦パークは地域の魅力を活かした「コミュニティビジネス」と「拠点としての機能」を通して二見以北地域に人の流れと経済循環を生み出し持続可能で活力ある地域コミュニティの実現に寄与していきます。

■ビジョン(実現したいこと)

地域課題を解決するコミュニティビジネスを通して過疎化による地域課題を解決しながら収益をあげ、自立経営を行うと共に利益を地域の発展につながる取り組みや仕組みづくりに投資・還元していく。

わんさか大浦パークの事業が成長していくと共に地域ぐるみで稼げる状況が実現され、地域の経済循環が活発になり、所得の向上、雇用の創出、交流人口、関係人口、定住人口が増加し、地域の豊かな暮らしと仕事とコミュニティが守られ、活気と笑顔あふれる地域が実現されていく。

■ミッション(役割、あり方)

常に地域に暮らす人々の小さな声（困りごとやニーズ）に耳を傾け、人々の望む暮らしと仕事、コミュニティを起点に事業を創造していく。

地域資源と人材を活用し、商品やサービス開発、仕組みづくり、事業化に取り組み、ビジネスや拠点としての機能を通して地域の声を現実化させていく。

私たちは地域に暮らす人の思いや声がカタチになる原動力であり潤滑油のような役割を担う。そして、何を守るために、何を変えるのか問いながら、この地域の暮らしと仕事とコミュニティのあり方を地域の方と共に進化させていく。

(2)機能強化の方向性

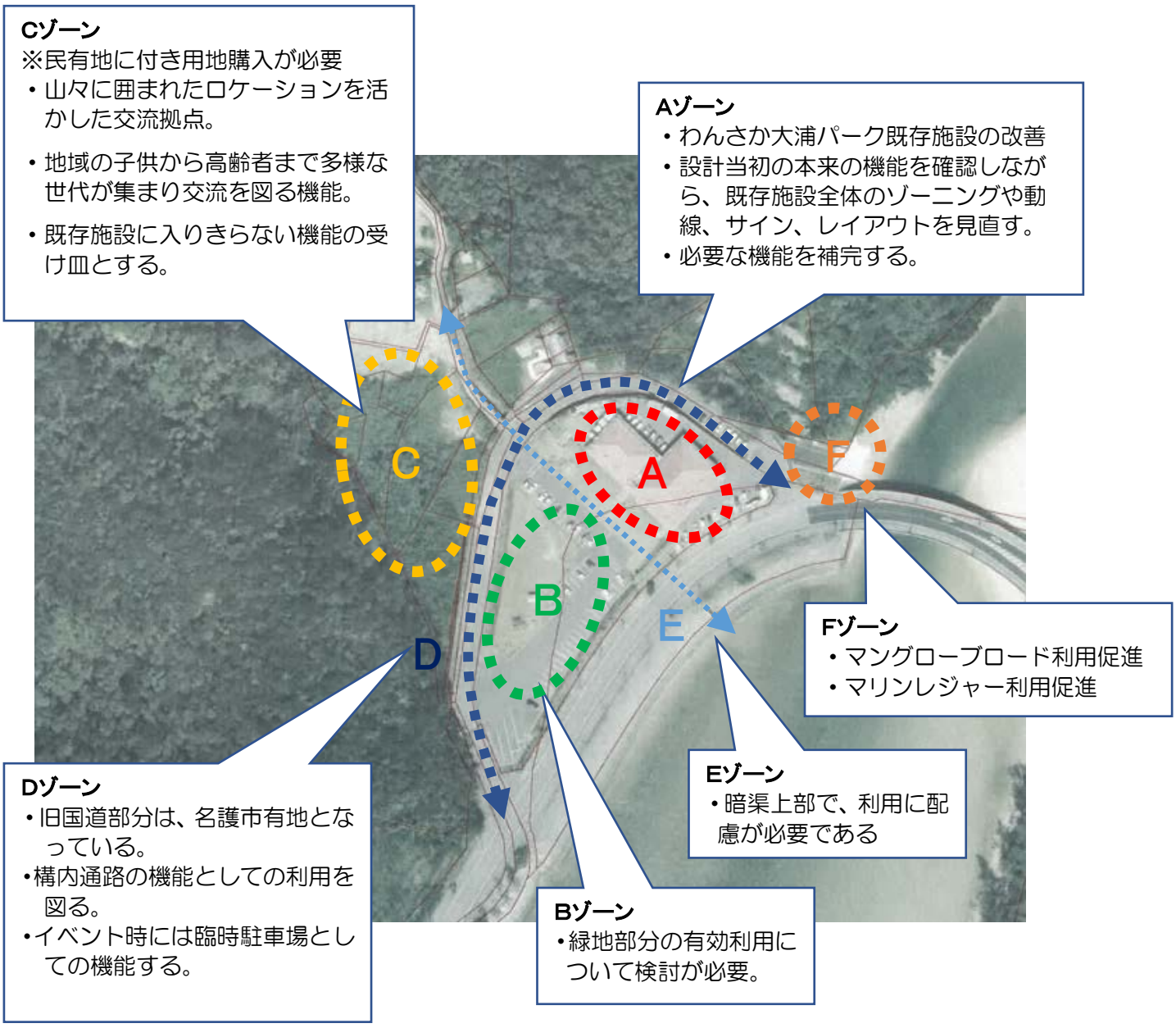
- 現施設の機能の改善とともに、周辺の土地利用も含めて補完し、二見以北地域の独自性を活かして、拠点性を高めていくものとする。

わんさか大浦パークの機能強化

～笑顔がわんさか 活力あふれる地域づくりの拠点施設～
・地域の交流拠点として日常利用の促進
・やんばる３村、東海岸の広域連携による集客性向上

計画課題	機能強化の方向性
(1)地域交流拠点の課題	● 地域の人に親しまれ賑わう施設。 ● 地域のモノが売れる場所。 ● 職員が笑顔で働ける場所。 ● 地域のニーズに応じた機能強化。
(2)ハード面での課題 利便性向上やコスト削減 ニーズへの対応	● 利用者がわかりやすい機能配置・動線。 ● 地域の生産者ニーズに応じた機能。 ● 地域内外の利用者ニーズに応じた機能。
(3)ソフト面の課題 地域連携の仕組み 外部との接点の仕組み	● 利用客層の分析 ● 地域の人が集まり、賑わう仕組みづくり ● 観光客はじめ地域外の人々の接点として経済循環を生み出す仕組みづくり
(4)地域特性の発揮と広域連携による集客性の向上	● 地域特性の発揮 ● 世界自然遺産への東海岸の入口機能 ● 東海岸の周遊・滞在促進機能 ● 広域連携のなかで人の流れを取り込む、周遊・滞在を促す情報発信機能や休憩・滞在機能の強化

図　各ゾーンでの機能強化の考え方（案）



（その他）
- 諸室機能の本来の機能を確認
- 認知度向上のための看板設置
- 構内サイン、動線の明確化
- 多言語化

(3)ゾーン別機能強化イメージ

A ゾーン （販売エリア）

項目	内容	
ゾーン（エリア）概要	既存の建築施設部分で、主に来訪者に飲食や物販を行う機能が配置されているエリア。 ・食材提供施設、お魚コーナー、農産物コーナー、物産販売コーナー	
機能強化の考え方	■わんさか大浦パーク既存施設の改善。 ■設計当初本来の機能を確認しながら、既存施設全体のゾーニングや動線、サイン、レイアウトを見直す。 ■必要な機能を補完する。	
	ハード面	ソフト面
具体的な施策	・ピロティの屋内化 ・デッキテラス機能 ・集荷・ストック機能	・サイン計画 ・レイアウト・デザイン計画 ・花木販売スペース ・什器備品等の充実 ・アクティビティ情報

【整備イメージ】

ピロティ屋内化のイメージ

店舗レイアウト・什器備品の充実

デッキテラスのイメージ

敷地内の誘導サインのイメージ

【課題】

- 既存の施設機能、建築躯体を活かした補完方法を検討する必要がある。レイアウト変更やデザイン、什器備品の充実、案内・誘導サインの充実を図る。

A ゾーン（地域交流エリア）

項目	内容	
ゾーン（エリア）概要	既存の建築施設部分で、主に地域の交流や集会、調理実習、休憩・談話などの機能が配置されているエリア。 ・地域情報・交流支援室、休憩・談話室 ・調理実習室 ・管理・運営事務所	
機能強化の考え方	■わんさか大浦パーク既存施設の改善。 ■設計当初本来の機能を確認しながら、既存施設全体のゾーニングや動線、サイン、レイアウトを見直す。 ■必要な機能を補完する。	
	ハード面	ソフト面
具体的な施策	・休憩・談話機能強化 ・集会・仕事など多様な利用ができるスペース ・調理実習室の衛生管理機能（HACCP 対応など）	・管理事務所の位置づけを明確化（案内所との分担）

【整備イメージ】

現在の休憩･談話室

休憩や談話･仕事など多目的に使えるスペース

HACCPの義務化
小規模事業者等は、「HACCP の考え方を取り入れた衛生管理」により衛生管理を行う必要がある。
（沖縄県パンフレット）

【課題】

- 既存の調理実習室は、当初、地域住民の利用に供する機能として整備されたものであり、事業所としての運用に関しては、必要な手続きを確認する必要がある。

A ゾーン （バックヤード）

項目	内容	
ゾーン（エリア）概要	既存の建築施設部分の周囲にある空地または仮設施設が設置されている部分で、補完的に利用されているエリア。 ・施設北側　コンテナ（倉庫利用）、仮設シャワー室など ・施設東側　コンテナ（艇庫利用）	
機能強化の考え方	■空きスペースの有効利用 ■補完機能整備	
	ハード面	ソフト面
具体的な施策	・倉庫機能の補完 ・職場環境の補完（休憩・更衣）	・管理事務所の位置づけを明確化（案内所との分担）

【整備イメージ】

スペース増設とラック等活用による空間の有効利用

従業員の休憩や更衣室

艇庫による適正な補完

アウトドアアクティビティ対象のシャワールーム

【課題】

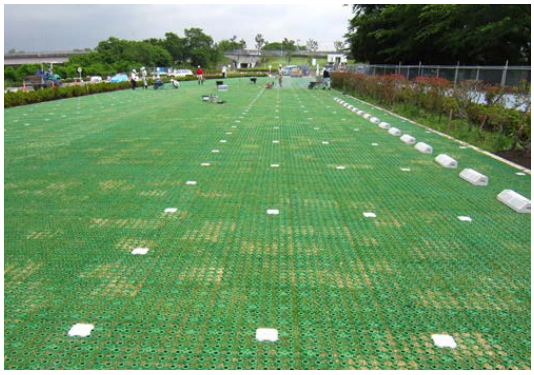
- 既存施設の倉庫の本来の機能を基に整理し、不足するスペース規模を精査して補完を検討する。
- 艇庫、シャワー等は需要に応じた必要規模を精査する。

B ゾーン

項目	内容	
ゾーン概要	既存の駐車場及び芝広場、その他外構、植栽となっている部分。 ・駐車場　普通車（46 台）、身障者用（2 台）、大型バス（3 台） ・芝広場 ・外構・植栽	
機能強化の考え方	■芝広場の有効利用検討 ■植栽の充実	
	ハード面	ソフト面
具体的な施策		・イベント利用 ・植栽管理の充実 ・日常的な有効利用

【整備イメージ】

現在の芝広場利用状況（イベント時）



多目的芝広場（臨時駐車場としても利用可能）

芝による演出（イベント時）

国道側の植栽

【課題】

- イベント時の利用がメインなっているが、日常的な維持管理の負担が大きくならないよう注意が必要である。

C ゾーン

項目	内容	
ゾーン概要	わんさか大浦パーク敷地北西部、旧道（Dゾーン）を隔てた土地で、平坦な広がりを持つ。背後は急斜面でやんばるの山林が囲んでいる。（現在売地となっている） ・イベント時に一部を臨時駐車場として借用利用した経緯がある。	
機能強化の考え方	■山々に囲まれたロケーションを活かした交流拠点 ■地域の大人から高齢者まで多様な世代が集まり、交流を図る機能 ■既存施設に入りきらない機能を補完する	
	ハード面	ソフト面
具体的な施策	・多目的芝広場（キャンプ場・臨時駐車場） ・健康増進機能等（散策・健康器具等） ・子育て支援機能（アスレチック遊具等） ・管理機能・情報発信機能、仮眠・休憩 ・トイレ・炊事等便益施設	・管理体制強化 ・アウトドア・イベント等による集客強化

【整備イメージ】

多目的芝広場のイメージ

アスレチック遊具のイメージ

健康増進機能のイメージ

情報発信･休憩･便益棟を備えた管理機能のイメージ

【課題】

- Cゾーンの用地は、現在民有地となっており利用にあたっては土地の取得が必要である。
- 既存の建物と離れているため、管理上の一体性を確保する必がある。

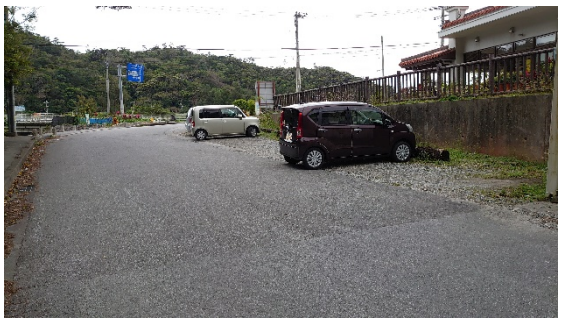
D ゾーン

項目	内容	
ゾーン概要	わんさか大浦パーク敷地を取り囲む、旧国道敷地。現在は道路用地ではなく名護市に移管されている。 ・イベント時に臨時駐車場として利用している。（約 60 台）	
機能強化の考え方	■構内通路 ■臨時駐車場 ■その他有効利用方法の検討	
	ハード面	ソフト面
具体的な施策	・構内通路 ・臨時駐車場	・駐車場としてのサインや表示 ・イベント時の動線案内

【整備イメージ】

旧国道スペース（西側境界　南側から）

旧国道のスペース（西側境界　北側から）



旧国道のスペース（東側　既存建物裏側）

【課題】

- わんさか大浦パーク北側への民有地（墓地等）へのアクセス道路となっている。
- わんさか大浦パークとの敷地境界は、高低差がある。
- 臨時駐車場として利用しており、今後も有効利用方法を検討する。

E ゾーン

<table>
<tr><th>項目</th><th colspan="2">内容</th></tr>
<tr><td>ゾーン概要</td><td colspan="2">わんさか大浦パーク敷地を北西～南東に貫く暗渠で、大浦湾に注いでいる。上部は、芝広場となっている。
・モニュメント配置されている
・子供たちが遊ぶスペースとなっている
・バスの発着場となっている
・イベント時にテント、座席等が配置される</td></tr>
<tr><td>機能強化の考え方</td><td colspan="2">■有効利用方法の検討</td></tr>
<tr><td></td><td>ハード面</td><td>ソフト面</td></tr>
<tr><td>具体的な施策</td><td>・暗渠上部の排水改善</td><td>・日常的な利活用方法
・イベント時の利用方法</td></tr>
<tr><td colspan="3">【整備イメージ】

階段下の通路部分の損傷

イベント時の利用

バス発着場となっている</td></tr>
<tr><td colspan="3">【課題】
・暗渠の機能を維持しながら有効利用を図る。</td></tr>
</table>

F ゾーン

項目	内容	
ゾーン概要	わんさか大浦パーク敷地の西側、大浦橋のたもとからマングローブロードにつながる部分である。 ・カヌー発着のスロープ ・マングローブロードの入口	
機能強化の考え方	■マングローブロード利用促進 ■マリンレジャー利用促進	
	ハード面	ソフト面
具体的な施策	・受付・案内場所のレイアウト及び動線等検討	・誘導サイン ・Aゾーンとの連携方策

【整備イメージ】

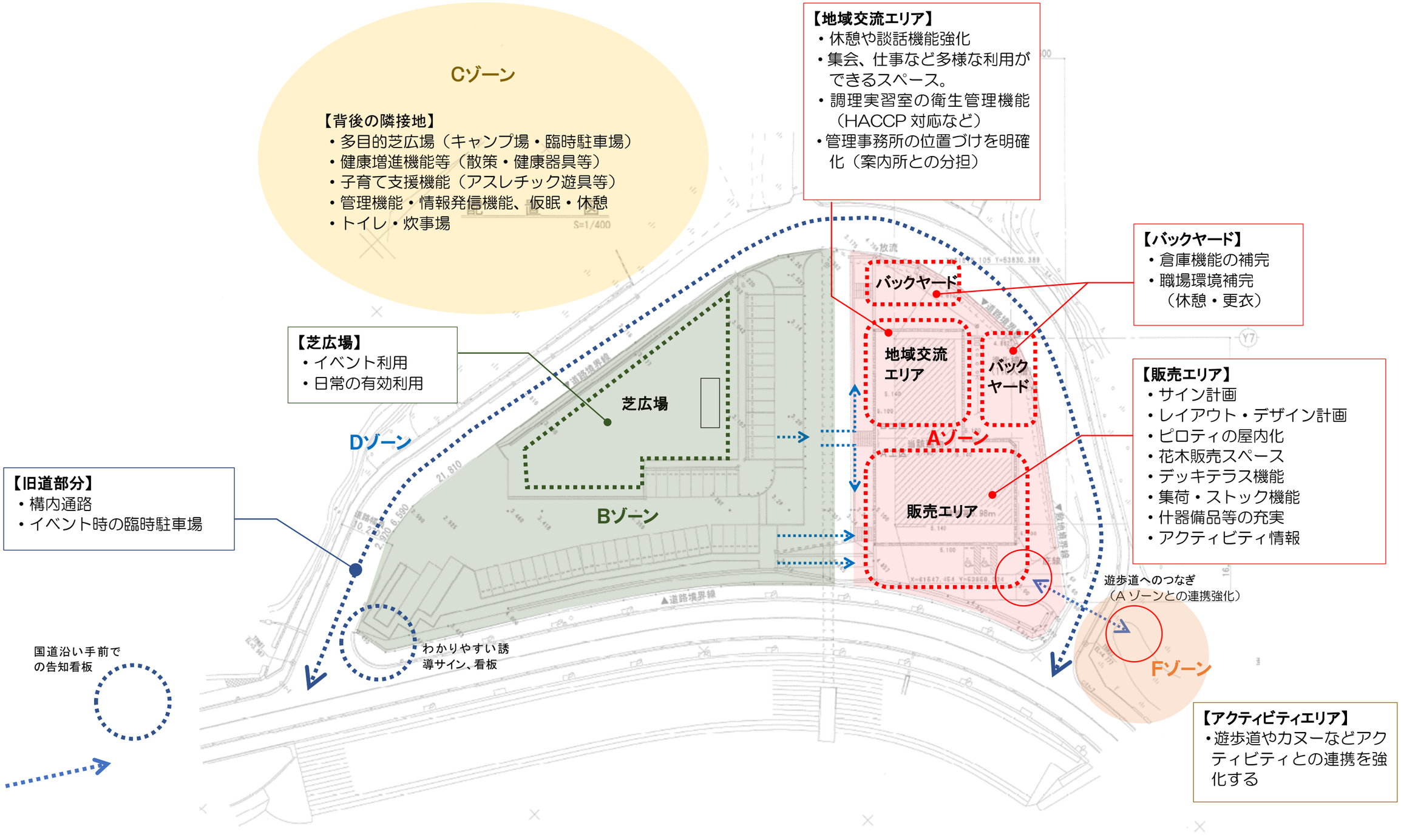
Aゾーンとの連携強化が必要である

現在の案内看板

遊歩道案内板の設置（億首川プロムナードの例）

【課題】
・Aゾーンでの情報発信、視認性、受付など、アウトドア・アクティビティを意識させる仕掛けをつくる。

図　わんさか大浦パーク基本計画　機能強化イメージ（案）



5 今後の課題

(1)ハード面の課題

① 既存施設の本来の機能等を確認しつつ、施設全体のゾーニングや動線、レイアウト、サイン計画等によりわかりやすい施設をめざす。

② 新たに必要となる機能の導入については、客層の分析等により採算性に配慮しながら規模・機能を設定する必要がある。

(2)ソフト面(運営・管理)の課題

① わんさか大浦パークの魅力を伝え、きちんと売れる仕組みが必要である。

② 客層の分析により、日常利用を増やす仕組みが必要である。

③ まずは知ってもらうこと、来てもらうこと、買ってもらうこと、そしてリピーターになってもらう仕組みが必要である。

④ 地域の人々が、わんさか大浦パークの運営を自分ゴトとして、地域全体で運営を考えていけるような仕組みが必要である。

【参考資料】 農産物直売所が抱える課題別アプローチ

「農産物直売所　経営改善マニュアル」(財) 都農山漁村交流活性化機構　より抜粋整理した。

表 農産物直売所が抱える課題別アプローチ (1/4)

課題別	アプローチの視点	取組み内容など
1組織運営	(1)活動方針の明確化	①組織運営基本方針の明確化 ②経営運営の規則、決まりの策定と厳守
	(2)役員はリーダーシップの発揮を	①役員には適任者を ②役員会を定期開催する
	(3)出荷会員の直売活動意欲を高める工夫	①出荷会員を運営に参加させる ②消費者との交流を深める ③販売品は出荷農家のものが基本
	(4)組織としての情報の共有化が重要	①関係者全員の情報共有化を進める ②情報伝達の迅速化と伝達手段の工夫
	(5)組織の維持と発展	①高齢者支援の対策を ②後継者確保の対策を ③中途参加者募集時の留意事項 （不足商品、将来性、新規就農者など） ④役員、出荷者、従業員の研修強化 ⑤出荷者や従業員の親睦活動も大切 ⑥直売所間の連携強化
2品揃え対策	(1)絶対的な商品不足	対策①「参加者の勧誘」 対策②「巡回による集荷」 対策③「市場からの仕入れ品の確保」
	(2)時期的な商品不足	対策①「施設栽培の導入」 対策②「時期をずらした栽培の奨励」 対策③「他の直売所からの直送品の手配」
	(3)時間的な商品不足	対策①「販売状況のメール配信」 対策②「昼市の開催」

表 農産物直売所が抱える課題別アプローチ（つづき 2/4）

課題別	アプローチの視点	取組み内容など
３集客・販売促進	⑴集客対策	①既存客の固定化を図る対策 ・会員登録による囲い込み ・集客イベントの頻繁な開催 ②新たな来客の確保につながる対策 ・広範囲の宣伝 ・通りがかりの客の取り込み ・のぼり旗の有効活用
	⑵販売促進対策	①買い物意欲を高める対策 ・POP の効果的な活用 ・食べ方の提案 ②自家消費のための買い方にプラスされる買い方の提案 ・誰かに送るための買い方の提案 ・景品や粗品としての買い方の提案
４店舗レイアウト	⑴商品構成を変える、新しい商品を導入する	①商品別売り上げ分析 ②店の特徴（コンセプト）の決定 ③週（各月）ごとに強化する商品の見極め
	⑵店舗のレイアウト	「歩きやすく」「見やすく」「選びやすく」「買いやすく」レイアウトする
５商品構成	⑴経験則よりも顧客動向を反映させる	売れるものを、売れる量だけ、売れる値段で提供
	⑵販売情報を活用した的確な商品構成	①販売情報（商品情報）の収集 ②情報の分析 ③情報の分析結果に基づいた仮説作り ④商品構成・販売
	⑶売れている商品をさらに伸ばしていく	①伸長率の高い物はどれか ②売上高構成比の高い商品はどれか ③独自性があり他と差異化できる商品は何か
６情報発信	⑴POP とは何か	①AIDMA（アイドマ）の法則 ・・人が「モノを買う」に至るまでの心理的特徴 A Attention ＝注意 ＋C Conviction ＝購買（行動） I Interest ＝興味・関心 D Desir ＝欲望 M Memory ＝記憶 A Action ＝注意
	⑵POP の作成にあたって	①商品ﾎﾟｯﾌﾟ・ﾒｯｾｰｼﾞの型・大きさ等を統一する ②発信する情報（内容）は、お客様、特に地域外者にも分かりやすい端的なものとする。
	⑶POP の役割とは	①デザイン、バランス等の「第一印象」が重要であり、乱立させず適切なポイントに配置する。 ②商品自体とその関連情報（特徴・料理方法等）が短い言葉で端的に表現されている ③文章が具体的でわかりやすく、ポイントがすぐに理解できる。
	⑷プライスカードとメッセージ・ポップ	①基本情報（お客様にとって必要不可欠な情報）以外にも付加価値情報（＋αとして強く訴求したい情報）を積極的にインフォメーションしていく。 ②セールスポイント、読みやすく短めの文章構成、誰にでもわかりやすい言葉、客観的かつ具体的表現、女性目線が重要。など

表　農産物直売所が抱える課題別アプローチ（つづき 3/4）

課題別	アプローチの視点	取組み内容など
7店舗運営	⑴人材育成	①地理を知る ②地域性を知る ③農産物の特徴を知る ④農産物加工品の特徴を知る ⑤工芸品・民芸品の特徴を知る ⑥行事の特徴を知る
	⑵接遇について	①もてなしはお客様の目的をつかむこと ②サービスの押し売りはしない
8レストラン運営	⑴レストランの作り方	①コンセプト作り ②メニューづくり ③売上目安 ④事業計画書をつくる ⑤損益分岐点を見る ⑥人件費の計算 ⑦店舗設備に関して ⑧衛生管理について ⑨人員管理 ⑩おもいやり
9新商品開発	⑴新商品開発のメリット	①付加価値の高い商品が生まれる ②スーパーやコンビニにはない個性と魅力を生み出す ③各種体験やツーリズムなど、サービスの創造 ④農産物の加工により高収益の利益が得られる ⑤オリジナル商品を生み出すことができる ⑥地域経済や雇用につながる
	⑵地域ならではの素材を活かす	①素材を厳選することでオリジナルの商品が生まれる ②オーガニックや特別栽培、エコロジーの特性を活かす ③伝統という特性、地域性の違いで個性を発揮する
	⑶消費者が求める商品を開発する	①余ったもので独りよがりに商品化しない ②ワインは世界と競合している ③漬物は単独では食べられない傾向に ④トマトは生食と加工で品種が異なる ⑤食の現場がわかる仲間と開発する ⑥食べ比べて、地域の売り物を明確化する ⑦消費者の要望に身近に答えられる直売所 ⑧商品は役者。役者が生きる舞台（売り場）を作る
10 事業の多角化	⑴地域資源の利用価値を広げる	①規格外や見栄えの悪い素材について、加工販売できれば商品価値が大きくなる。例）高知県馬路村のゆず製品等
	⑵直売＋多様なサービス事業を提供する	①施設の複合化 ②販売先の多角化 ③体験事業、ツーリズムとの融合、コンサル業等
	⑶直売活動の多角化の可能性	①もくもく手作りファーム（三重県伊賀市）の例 ・加工工房、体験コース、レストラン運営、通販、宿泊施設、結婚式、おせち料理、牧場経営、農業体験ｶﾙﾁｬｰｾﾝﾀｰ ②イタリアのスローフード協会の例 ・食の商品開発、出版、教育事業、大学運営、コンサルタント、まちづくりの政策提言
	⑷レストラン発事業の多様性	例）大分県「木の花ガルデン」のキノコ創作料理 例）三重県「まごの店」高校生の調理部の部活動の一環 例）スタンド形式の軽食販売　など
	⑸通信販売も商品力が鍵となる	・商品の品質保持、ファンの獲得、営業体制、受注・発注システム、情報発信力

表　農産物直売所が抱える課題別アプローチ（つづき 4/4）

課題別	アプローチの視点	取組み内容など
11 地域社会への貢献	⑴地域の期待を背負う直売所	①地域社会への貢献が期待される ②中山間地域では直売所が地域活性化拠点へ ③農村地域では直売所が地域農業振興拠点へ ④都市地域では農業存続と農業啓発の拠点施設へ
	⑵2 号店開設や宅配事業の実施	①商店街活性化が目的の２号店や出張販売 ②宅配事業
	⑶地域食文化の継承と開発	①地域伝統食品の復活 ②新たな農産加工品の開発 ③伝統食品加工講習・郷土料理教室
	⑷地域農業支援活動	①地域農業活性化 ②農作業受委託 ③農業後継者づくり ④地域伝統野菜の復活 ⑤新品種開発競争
	⑸地域社会活動	①直売所は地産地消活動の中核 ②食農教育活動 ③学校、施設等への給食食材供給 ④地域食文化・伝統業催事の復活
	⑹地域の情報発信拠点に	①地域活動の情報掲示 ②地域の観光や商工業の情報提供 ③修学旅行の農村体験受入れや児童生徒の職場体験受入れ ④農業・農村の大切さを伝える

出典:「農産物直売所　経営改善マニュアル」より作成

参考資料

１ 専門家との意見交換概要

【第１回】
日　時：令和２年２月２５日（火）　　１３：００～１５：００
場　所：わんさか大浦パーク　地域情報・交流支援室
専門家：松本謙　（株）ファーマーズ・フォレスト　代表取締役社長
内　容：『わんさか大浦パークの魅力と機能強化の方向性』
　　①専門家による講演　　②意見交換

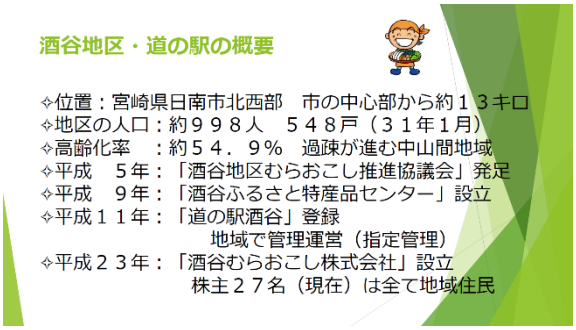
【意見交換概略】

- 「地域商社」として地域を売っていく役割という考え方で、ろまんちっく村やうるまルシェを運営している。
- 日常的な利用者の分析で、客層を複層的にとらえていくことが必要。
- 地域の共同店等とも、補完的な関係で共存し合う関係が望まれる。
- まずは知ってもらい、来てもらい、リピーターになってもらう仕掛けをつくる。
- 特徴的なコンテンツを活かし、それをしっかり伝えること。
- 利用者の目線で、そこに何があるのか、売り場のメッセージがわかりにくい。
- 行政の縦割りや単年度主義に横ぐしを刺すのが民間、相互に補完し合う関係を。
- わんさか大浦パークが自走するために必要な集客規模を逆算し目標を立てる。
- 立寄りではなく、来訪目的となるコンテンツで集めて、買い物してもらう。
- わんさか大浦パークの強みはアクティビティ。
- スタッフが自分ゴトとして、商品を売れるかどうか？が重要。
- 機能強化の方向性として、いろんなコンテンツを作るというところに向けていきながら、優先順位が一番高いのは、本体の機能強化で、「きちんと売れる仕組み」が作れるかが大きなカギだと思う。サイン計画を含めてやっていく必要があると思います。

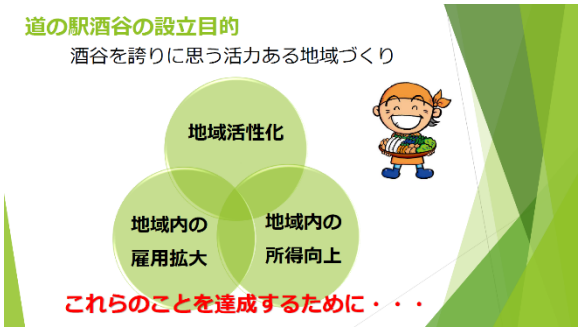
【第２回】

日　時：令和２年３月９日（月）　　１３：３０～１５：３０
場　所：わんさか大浦パーク　地域情報・交流支援室
専門家：野邊　和美　様　（道の駅酒谷駅長　酒谷むらおこし株式会社常務取締役　）
内　容：『道の駅酒谷の取り組みと地域活性化』
　　①講演　　②意見交換

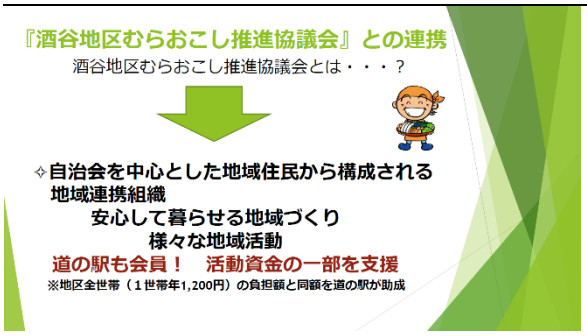
- 道の駅酒谷（宮崎県日南市）は、日南から鹿児島に向かう国道 2 号沿いに立地。
- 交通量も 1000 台前後と少ない場所にある。



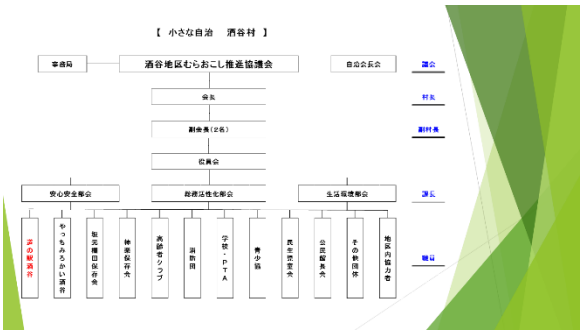
- 人口も 100 人に満たない地区で、地域の活性化のために住民が自治組織を立ち上げた。



- 地域活性化、地域内の雇用拡大、地域内の所得向上の３つの目的をもって、実践してきた。
- 今では、自身をもって酒谷出身といえる。誇りが生まれている。



- 自治会を中心とした組織で、地域のみんなで道の駅酒谷を盛り上げていこうという意識がある。
- 道の駅酒谷も、収益をのむらづくりに還元している。



- 地域全体で、小さな自治を作り、それぞれが役割をもってやっている。
- 地域住民が主体。

- 道の駅は、地域活動の場でもあり、また、地域の一員として、様々なイベントにも参加している。

- 高齢者への弁当の配達や、見守りなど、住民サービスを行い、高齢になっても地域に住み続け、生涯現役で暮らせる地域。

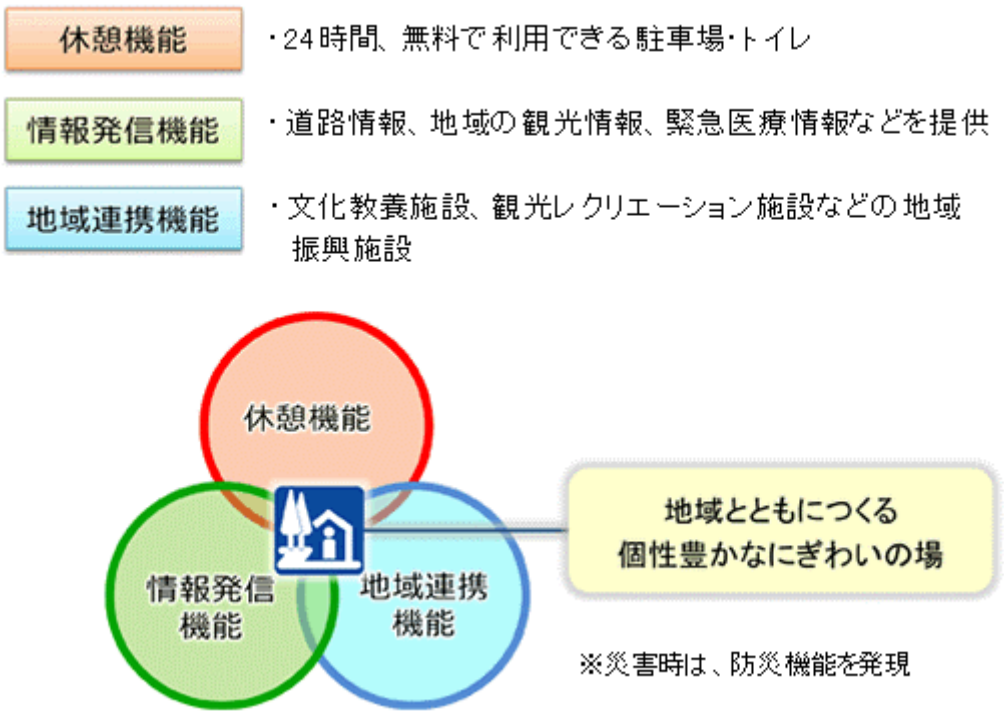
2 道の駅の登録について

- 令和２年３月 13 日時点で、全国で 1,173 駅の登録がある。
- 沖縄県内では、現在以下の９つの登録がある。

■沖縄県内の道の駅

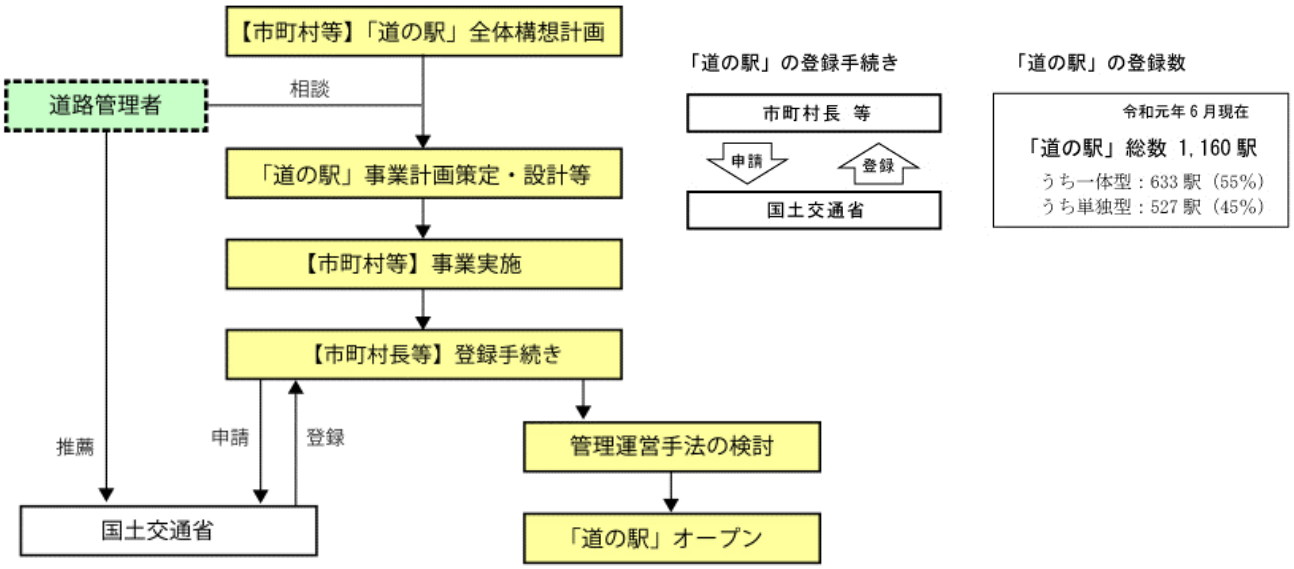
県名	駅 名	登録回	登録年月	所在地
沖縄県	許田（きょだ）	第5回	H6.4	名護市
沖縄県	おおぎみ	第15回	H11.8	国頭郡大宜味村
沖縄県	ゆいゆい国頭（くにがみ）	第15回	H11.8	国頭郡国頭村
沖縄県	かでな	第19回	H15.8	中頭郡嘉手納町
沖縄県	喜名番所（きなばんしょ）	第22回	H18.8	中頭郡読谷村
沖縄県	豊崎（とよさき）	第29回	H20.12	豊見城市
沖縄県	いとまん	第31回	H21.6	糸満市
沖縄県	ぎのざ	第42回	H26.10	国頭郡宜野座村
沖縄県	サンライズひがし	第52回	R2.3	東村

- 「道の駅」は、道路利用者に快適な休憩と多様で質の高いサービスの提供を図るため、①休憩機能、②情報発信機能、③地域連携機能の３つの機能を備え、休憩施設と地域振興施設が一体となった道路施設である。



資料：国土交通省ホームページより

■道の駅整備フロー



※道路管理者の簡易パーキングの計画がある場合、
道路管理者が整備する簡易パーキングと一体的に整備する場合がある。（一体型）

■道の駅」の設置者、登録方法

- 「道の駅」は、市町村又はそれに代わり得る公的な団体が設置・登録は、市町村長からの登録申請により、国土交通省で登録
- 整備の方法は、道路管理者と市町村長等で整備する「一体型」と　市町村で全て整備を行う「単独型」の２種類

■「道の駅」の登録要件

○休憩機能
利用者が無料で 24 時間利用できる
・十分な容量を持った駐車場
・清潔なトイレ（原則、洋式）
・子育て応援施設（ベビーコーナー等）

○情報発信機能
道路及び地域に関する情報を提供（道路情報、地域の観光情報、緊急医療情報等）

○地域連携機能
文化教養施設、観光レクリエーション施設などの地域振興施設

○その他
施設及び施設間を結ぶ主要経路のバリアフリー化

○設置者
市町村又は市町村に代わり得る公的な団体※
※ 都道府県、地方公共団体が三分の一以上を出資する法人または市町村が推薦する公益法人

■「道の駅」の整備に関する事業制度について

特定交通安全施設等整備事業

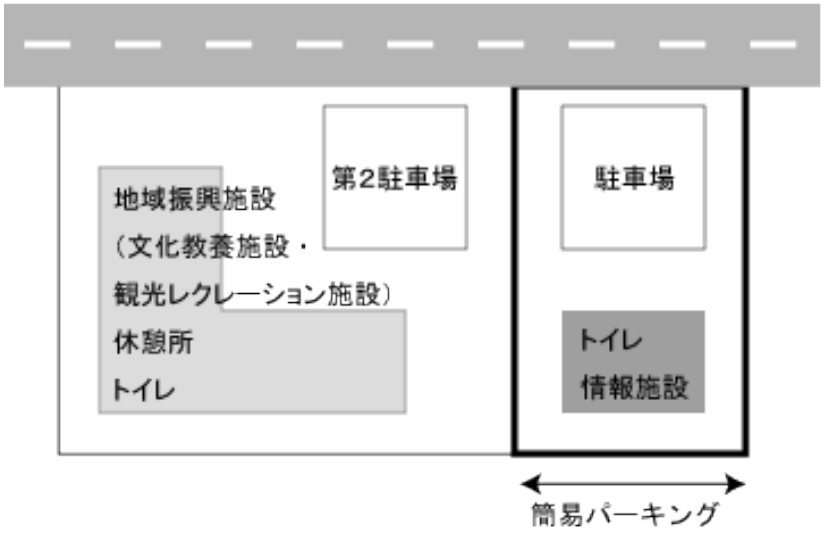
対象事業:

- 道路管理者の行う自動車駐車場(簡易パーキングエリア)の整備(直轄事業・補助事業)で、駐車場、トイレ、道路情報ターミナル等の道路施設の部分を対象としています。

採択基準:

- 主要な幹線道路のうち、夜間運転、過労運転による交通事故が多発もしくは多発する恐れのある路線において、他に休憩のための駐車施設が相当区間にわたって整備されていない区間に道路管理者か簡易パーキングエリアを整備する場合を採択の基準としています。

道路管理者の行う「特定交通安全施設等整備事業」で
簡易パーキングエリアを整備する場合の事例



資料:国土交通省ホームページより

③「道の駅」による地方創生拠点の形成

- 道路利用者の休憩施設であるとともに、情報提供機能、地域手計機能を有する拠点として、整備が進められてきた「道の駅」は、その数が 1,000 を超えるなか、それ自体が目的地となり、「まち」の特産物や観光資源を活かして「ひと」を呼び、地域の「しごと」を生み出す核へと進化を遂げてきた。
- これを踏まえ、国土交通省では平成 26 年 8 月に、「道の駅」の機能強化を図り、地方創生の拠点とする先駆的な取組モデル箇所として選定し、関係機関が連携の上、計画段階から総合的に支援することとしている。

支援対象

（出典：国土交通省道路局記者発表資料（H26.8.28））

＜地方創生拠点となる「道の駅」のイメージ＞

＜「道の駅」を核とした好循環＞

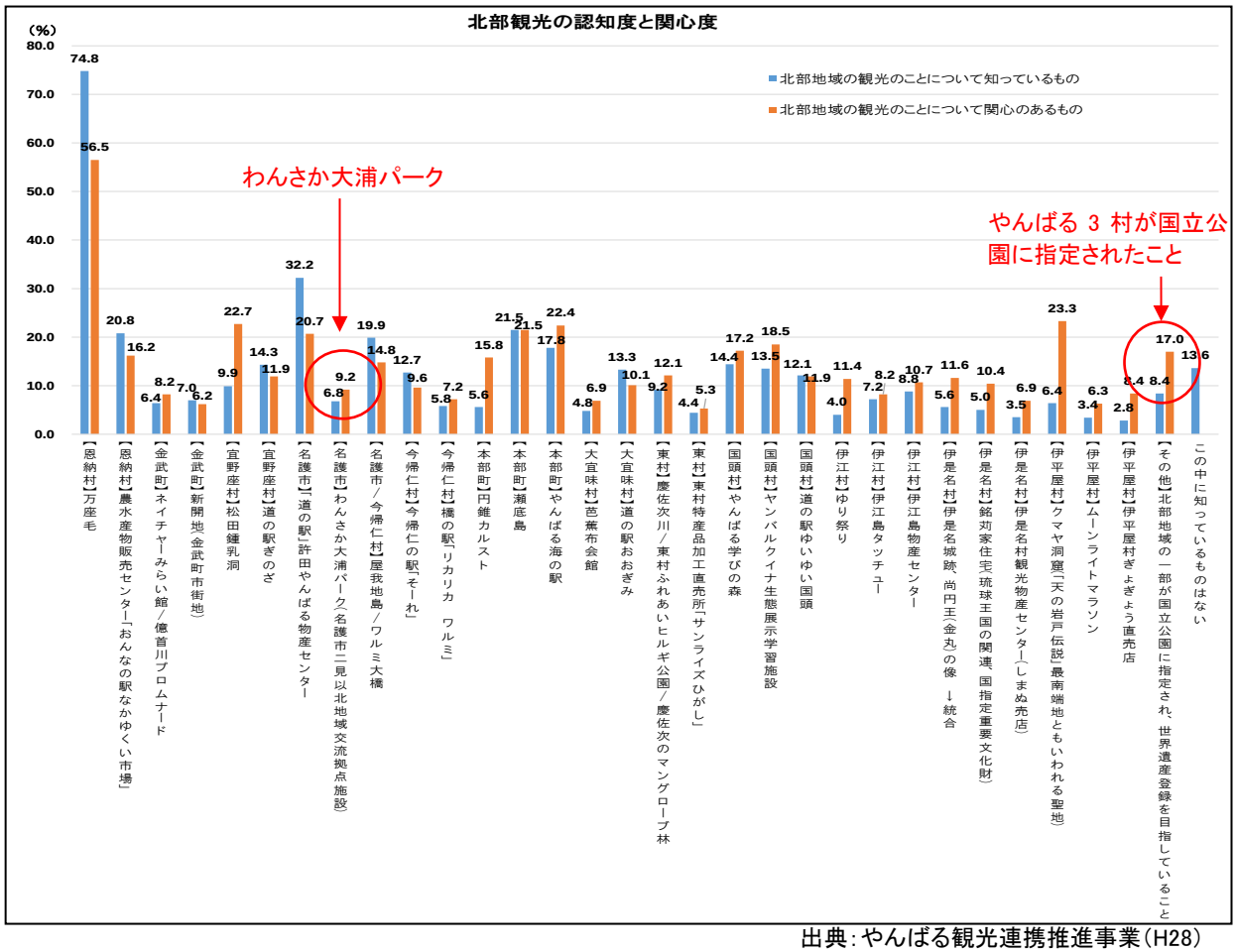
⑤道の駅登録に向けて　わんさか大浦パークの活かすべき特性

- わんさか大浦パークが道の駅登録を目指すにあたっては、登録要件を満たすとともに、必要性や独自性を示す必要がある。

ア　観光地としての位置づけ

- 北部広域市町村圏事務組合が行った北部観光の認知度とWEBアンケートによると、沖縄の北部に訪れたことがある人で、知っているもの、関心のあるものという問いで、西海岸の観光地に比べて東海岸のスポットは低い値となっている。逆に言うと、これから伸びしろのあるスポットになる可能性もある。
- 観光客が急増するなか、西海岸は宿泊施設や飲食店などが増加する一方、オーバーツーリズムも懸念されており、その対策の一つとして観光客の周遊促進による分散化もあげられている。
- 東海岸はその新たな観光目的地の一つとして、注目されるようになってきている。
- 東海岸では、平成30年4月に道の駅ぎのざがリニューアルオープンし、初年度約63万人の集客があったとされている。

図　北部観光の認知度と関心度　WEBアンケート　沖縄の北部に訪れたことがある人
Q：以下の項目で、ご存知のものを、関心のあるものを全てお答えください。



出典：やんばる観光連携推進事業（H28）

イ 休憩機能の視点

- 沖縄北部東海岸は、西海岸と山岳地帯を隔てており、西海岸に比較すると人口や交通量、商業施設等が極端に少なく、道路利用者に対する十分な駐車スペースを持つ場所は確保されていない。
- 北部東海岸には、「道の駅」等の 24 時間利用可能な駐車スペースが確保されていない。
- わんさか大浦パークは、道の駅ぎのざから約 17km、また、東村の県道 70 号時にあるサンライズひがしまでは 25km の距離にある。
- 東海岸においては南北をつなぐ国道 329 号、国道 331 号、また西海岸につながる国道 329 号、県道 18 号、市道羽地大川線へのアクセスもよい。

図 わんさか大浦パークと主要な観光拠点の距離と移動時間（再掲）

注意：距離・時間は googlemap による計測値

ウ　情報発信機能の視点

- 沖縄県の観光情報は、主に「空港」や「主要公共施設」など、また道路情報については各道路管理者による道路情報版・ＨＰ等により提供されている。
- 北部東海岸では、これまで西海岸に比較して観光スポットが少ないことや、認知度が低いこともあり、特に観光情報や地域情報については十分に提供されていないため、観光客にとっては不便な地域となっている。
- 平成 30 年に「道の駅ぎのざ」がオープンし、沖縄本島東海岸では唯一の道の駅となっている。それより北には、観光スポットや市街地等も少なく、観光情報が得にくい区間となっている。
- 北部東海岸は、豊かな自然と、これらと調和しながら育まれた歴史・文化が残る場所である。やんばるの森は世界遺産登録候補ともなっている。
- こうした資源を保全しながら観光周遊等に活かしていくことが必要であり、観光客の過度な集中やマナーを喚起するため、東海岸全体が連携して情報発信することも必要である。
- わんさか大浦パークはその区間内にあり、県内外からの観光客が増加するなかで、道路情報や地域の文化、歴史、観光案内等、ニーズに即した情報を容易に入手できる「情報発信機能」の強化が必要である。

エ　地域連携機能の視点

- わんさか大浦パークは経営理念として、地域の魅力を活かした「コミュニティビジネス」と「拠点としての機能」を通して二見以北地域に人の流れと経済循環を生み出し持続可能で活力ある地域コミュニティの実現に寄与することを掲げている。
- また、フラワーフェスティバルなどを通して、東海岸の広域的な連携の中心となってきた経緯もある。今後も東海岸は観光地として連携を図り、自然環境の保全と活用を進めていく必要がある。
- 地域の特性である、海、山、川の豊かな自然環境を活かしながら、観光や交流人口を増やすとともに、イベントやレジャー、ビジネスなど多様な活動を通して、地域の核として、人、物、情報、経済の行き交う拠点として強化する必要がある。

【参考資料】道の駅の登録要件と機能強化の方向性

【登録要件と機能強化の考え方】

必要機能	登録要件	機能強化の方向性
休憩 機能	利用者が無料で 24 時間利用できる ・十分な容量を持った駐車場 ・清潔なトイレ（原則、洋式） ・子育て応援施設（ベビーコーナー等）	● 24 時間オープン ● 駐車場の拡充 ● トイレ必要数の確保 ● 子育て応援施設の整備 ● ゆったりと大浦湾ややんばるの自然を眺めながら休憩できるスペース
情報発信 機能	・道路及び地域に関する情報を提供（道路情報、地域の観光情報、緊急医療情報等）	● 情報案内スペースの整備 ● 道路情報、地域の観光情報、緊急医療情報等充実 ● やんばるの自然や東海岸の情報発信機能の拡充
地域連携 機能	文化教養施設、観光レクリエーション施設などの地域振興施設	● 地域内外の子供から高齢者まで、安心して遊べる場所 ● 自然を楽しみ体験できる施設 （親水性、アスレチック、散策路、遊具など） ● 地域内外の人々が仕事や多様な活動を通して交流できるスペース
その他	施設及び施設間を結ぶ主要経路のバリアフリー化	● 主要経路のバリアフリー化 ● 天候・風雨の影響に左右されない施設整備 ● 防災機能の強化 ● コスト削減につながる設備導入
設置者	市町村又は市町村に代わり得る公的な団体	● 設置者は名護市 ● 民間との連携